法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

第五編相続法理由書原稿

(発行年 / Year)
1910

第五編　相續法理由書原稿

法典調査會

第五編　相續

理由　相續法ノ編纂ニ付テハ或ハ之ヲ特別法トシテ制定シ或ハ之ヲ民法々典中ニ編入スルモノアリト雖モ近世諸国ノ立法主義ハ概ネ後ノ編纂法ニ依ルモノニシテ固ヨリ至當ノ主義タルベシ然レトモ民法法典中ニ於テハ相續法ノ位置ニ付テハ從来ノ立法例ハ凡ソ之ヲ四種ニ分別スルコトヲ得一ハ即チ相續ハ主トシテ親族関係ニ基クモノナリトシテ相續ニ関スル規定ヲ以テ親族法中ニ編入シ二ハ即チ相續ハ主トシテ所有権ノ継受スルモノナリトシテ之ヲ物ニ関スル法規中ニ規定シ三ハ即チ相續ハ所有権其他ノ財産

法典調査會

寫

権ノ取得方法ナリトシテ之ヲ財産取得ニ関スル法規中ニ編入シ四ハ即チ相續法ヲ以テ特別ノ一編トシ之ヲ法典ノ最後ニ掲クルモノニシテ其理由トスル所ハ主トシテ相續ハ財産ノ包括的取得ノ方法ナリト雖モ各人ノ財産上及ビ親族上ノ関係ヲ明カナラシメメハ後ニ於テ定ムル人モノナシハ相續法ハ此等ノ関係ヲ規定スル諸法規ノ後ニ特別編トシテ掲クルヲ以テ其當ヲ得タルモノナリトスフニ存スル而シテ既成法典ハ右四種ノ主法主義ノ中ニ於テ第三ノ主義ニ從ヒ相續ハ即チ包括名義ノ財産取得ノ方法ナリトシテ之ヲ

法典調査會

財産取得編中ニ規定シ特定名義ノ財産取得
ノ方法ニ関スル條章ニ次キテ之ヲ掲ケト雖
モ我国ニ於ケル相續ハ歐洲諸国ニ行ハルル
相續ノ如ク單純ナル財産相續ニ非スシテ別
ニ家督相續ナルモノヲ存シ殊ニ家督相續ハ
本邦固有ノ風習トシテ財産相續ヨリ重セラ

ルルモノナレハ我国ニ於ケル相續ハ決シテ
之ヲ單純ナル財産取得ノ方法タルニ止マル
ト解スベカラサルハ勿論ニシテ從テ相續法
ノ範囲ハ財産相續以外ニ於テ家督相續ニ関
スル規定ヲ包含セサルベカラサルコトハ別
ニ辨明ヲ要セサル所トス故ニ改成法典ハ相

續ニ関スル財産取得編第十三章ノ首節ニ於テ先ツ家督相續ヲ規定シ遺産相續ニ関スル規定ハ之ノ次節ニ掲ケ家督相續ヲ重ンスル趣旨ヲ表明セルハ至當ノ立法主義ナリト雖モ既ニ相續ハ家督相續ト財産相續トヲ包含シ決シテ單純ナル財産取得ノ方法タルニ止マラサルコトヲ示セルニ拘ハラス相續ニ関スル規定ヲ以テ財産取得編中ノ一章ト為シタルハ立法ノ本旨ニ悖リ編纂ノ體裁其宜シキヲ得ルモノト云フヨリヲ得ス斯ノ如ク我国ニ於ケル相續ハ家督相續ト財産相續トニ包含スルモノナレハ相續法ヲシテ親族法

法典調査會

ノ一部タルニ止マラシムルコトヲ得ス又之
ヲ財産法中ニ編入シテ其當ヲ得ノリトスル
コトヲ得サルノミナラス人説ニ相續法ノ位置
ニ関シテ説明シタル第四ノ主義主義ノ如キ
相續ハ財産上及ビ親族上ノ関係ヲ明カナラ
シメタル後ニ於テ定ムベキモノナレハ本案

ハ相續法ヲ以テ独立ノ一編トシ民法ノ典中
ノ最後ニ之ヲ掲ケタリ
改成法典ハ隠居家督相續ニ関スル特別規定
ヲ相續法中ニ掲ケ隠居ノ為スヘキ要件等ノ規定
スト雖モ隠居ノ法律上ノ性質ハ即チ戸主権
ヲ喪失スルコトニ存シ其結果トシテ相續ヲ

開始セシムルニ至ルモノナシハ隱居其モノ
ニ関スル規定ハ之ヲ戸主ニ関スル親族法ノ
條章中ニ掲クルヲ以テ其當ヲ得タルモノト
ス又既成法典ハ贈與及ビ遺贈ニ関スル規定
ヲ一處ニ纏括シ相續ニ関スル規定ト相並ビ
テ財産取得編ノ一章タラシムト雖モ贈與ノ

規定ハ既ニ公布セラレタル民法第三編中ニ
編入セラレ又遺贈ハ財産相續ノ原因ニシテ
相續法中ニ之ヲ規定スルハ至當ノ編纂法タ
ルニ因リ本章ハ隱居家督相續ニ関スル改成
法典ノ特別規定ノ相續編中ヨリ刪除セシニ
及シ遺贈ニ関スル規定ハ之ヲ本編中ニ掲ケ

タリ其他改成法典ハ相續ニ関スル財産取得
編第十三章ノ始メニ於テ其總則トシテ相續
ニハ家督相續ト遺産相續ノ二種アルコトヲ
明示スト雖モ無用ノ條文タルニ過キサルヲ以
テ本章ハ之ヲ刪除セリ而シテ相續編ノ總則
トシテ各種ノ相續ニ共通スベキ規定ヲ求ム

法典調査會

ルニ庶出ノ相續權ニ関スル規定ノ如キ一二
ノ條文ヲ存スルニ過キサルヲ以テ本章ハ別
ニ相續編ノ總則ヲ設ケスシテ直チニ家督相
續ニ関スル規定ヲ掲ケ此規定ニシテ遺産相
續ニモ適用スベキモノニアラハ別ニ之ヲ適
用又ハ準用スベキ旨ノ規定ヲ設クルコトヲ

ニ以テ編纂ノ體裁ヲ保タシメタリ

數人ノ相續人ノ同時死亡ノ場合ニ於ケハ法律上ノ推定ニ関スル規定ハ佛國民法ヲ始メトシテ二三ノ法典ハ之ヲ相續法ノ始メニ掲クト雖モ斯ノ如キ推定ハ實際ノ事実ニ適セサルコトタヽ此等ハ寧ロ証拠問題トシテ別

ニ法律ノ規定ヲ設ケサルヲ以テ妥當ト認ムルノミナラス英國ノ如キハ別段ノ規定ヲ設ケサルモ敢テ不便ヲ感セサル実例ヲ示スモノナルハ本章ハ相續人ノ同時死亡ニ関シ別ニ規定ヲ掲ケサルナリ

第一章　家督相續

（理由）本章ハ既成法典財産取得編第十三章第一節ニ相當スルモノニシテ既成法典ハ本節第一款ニ於テ家督相續ニ関スル通則ト家督相續人ノ資格ニ関スル規定トヲ合載スト雖モ本案ハ法條ノ整頓ト編纂ノ体裁ヲ保タシカ為メニ本章第一節ニ於テ家督相續ノ總則ヲ掲ケ次ニ第二節ニ於テ家督相續人ノ資格ヲ規定シ第三節ニ於テハ家督相續人ノ順位ヲ指定シ終リニ第四節ニ於テ家督相續ノ効力ヲ規定セリ而シテ隠居家督相續ニ関スル既成法典財産取得編第三百十條以下數條ヲ刪除シタル理由ハ既ニ本編ノ始メニ説明

法典調査會

セシ如クナレハ此ニ之ヲ畧ス

第一節　通則

第九百二十九條

（理由）本條ハ家督相續開始ノ原因其時期及ヒ相續開始ノ地ヲ指定スルモノニシテ既成法典財産取得編第二百八十七條ハ家督相續ノ定義ヲ掲ケ其原因ヲ示スニ止マルト雖モ定義ハ実際上其必要ナキニ及シ家督相續開始ノ時期ハ相續ノ承認及ヒ抛棄等ニ関シ種々ノ関係ヲ有スルモノナレハ本條第一項ハ相續開始ノ原因及ヒ其時期ヲ明カナラシムルモノトス而シテ既成法典ハ家督相續ノ原

法典調査會

因トシテ戸主ノ死亡又ハ隱居ヲ掲ケンニ止
マルト雖モ戸主カ國民籍ヲ失ヒタルトキハ
戸主權ヲ喪失スベキコト當然ノ結果ニシテ
若シ此者ノ家カ單ニ右ノ戸主ノミナルトキ
ハ其家ハ廢家ト為ルベク又他ニ適當ノ相續
人アルトキハ家督相續ハ此ニ開始シテ敵テ

法典調査會

一家ノ廢亡ヲ招クニ至ラサルベシ故ニ戸主
ノ國籍喪失ヲ以テ家督相續開始ノ一原因ト
為スコト固ヨリ至當ノ規定ニシテ本案ハ即
チ本條第一号ニ於テ特ニ此趣旨ヲ明示スト
雖モ國籍喪失ノ原因ノ如キハ特別法ニ依リ
テ規定セラルルモノナレハ此ニ之ヲ掲ケス

其他戸主カ失踪ノ宣告ヲ受クルコトニ因リテ家督相續カ開始スベキハ當然ニシテ改成法典ノ如ク失踪ノ宣告ニ附スルニ死亡ノ推定タハ効カヲ以テセサル以上ハ單ニ戸主ノ死亡ハ家督相續ノ原因タルコトヲ示スノミニテハ失踪ノ宣告ヲ受クルコトニ因リテ家督相續ヲ開始スルモノニ非ストノ解釈ヲ生セシムベシト雖モ改正公布セラレタル民法第三十一條ノ如ク失踪ノ宣告ハ死亡ノ推定タハ効カヲ有スルモノト為ス以上ハ戸主カ失踪ノ宣告ヲ受クルニ因リテ家督相續カ開始スベキハ勿論ニシテ本條第一項ニ掲クル

所ノ戸主ノ死亡ナル型因中ニハ所謂法律上ノ死亡ヲ含ムモノ宜敷ノモ包含スヘキハ解釈上更ニ疑ヲ容レサル所トス

次ニ女戸主カ入夫婚姻ヲ為スコトニ因リテ家督相続カ開始スルコトニ付テハ既成法典ニ別段ノ規定ナリ却テ人事編第二百五十八條ニ於テ入夫婚姻ノ場合ニ於テハ婚姻中入夫ハ戸主ノ代表ニテ其権ヲ行フト規定セルニ止マルヲ以テ別ニ家督相続ヲ開始セシメサルモノナリト解釈セサルヘカラス然レドモ入夫婚姻ニ因リテ女戸主カ戸主権ヲ失ヒ入夫カ戸主ト為ルコトハ従来普通ニ行ハレ

タル慣習ナシハ既ニ本案第七百三十四條ノ
規定ニ依リ女戸主カ入夫婚姻ヲ為シタルトキハ入夫ハ其家ノ戸主ト為ルコトヲ以テ通則ト定メタルニ因リ本案ノ立法主義ニ依レハ女戸主ノ入夫婚姻ハ家督相續ノ一個ノ原因タルコトヲ得ベキハ當然ニシテ之レカ我国従来ノ慣習ニ適スルモノト謂フベシ故ニ本案ハ本條第二號ニ於テ女戸主ノ入夫婚姻ニ因リ家督相續カ開始スル旨ヲ明示スルモノニシテ若シ当事者ノ意思ニ因リ第七百三十四條但書ノ規定ニ従ヒ入夫カ戸主ト為ラサルトキハ入夫婚姻ニ因リテ別ニ家督相續

ノ結果ヲ生セシメサル人加論ノ事タルベシ」

本條第二項ハ改成法典ニ其例ナシト雖モ相續開始ノ地カ確定セサルトキハ家督相續ニ関スル裁判管轄カ不明ナルニ因リ適當ノ場所ヲ指定シテ相續開始ノ地ト認メタルニ外ナラサルナリ

法典調査會

第九百七十條

理由　本條ハ家督相續回復ノ請求權ニ関スル特別時效ノ規定ナリ蓋シ相續人種々ノ權利義務ヲ包含スルモノナレハ其回復請求權ノ如キハ通常時效ノ最長期間即チ相續開始ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルニ因リテ消滅

セシムハヲ以テ通則ト為ササルベカラサル

ガ如シト雖モ家督相續ノ如キ一家一族ノ為

メ並ニ第三者ニ對シテ種々ノ重大ナル利害

關係ヲ有スル事項ニシテ永ク不確定ノ狀態

ニ存セシムルコトハ務メテ之ヲ避ケサルベ

カラサルニ因リ苟モ家督相續人又ハ其法定

代理人カ相續權侵害ノ事實ヲ知リタル以上

ハ速カニ其回復ヲ請求シテ濫リニ不確定ノ

法律關係ニ存續セシメサルコトヲ要スル是レ

即チ本條ハ家督相續回復ノ請求權ニ付キ特

別時效ノ期間ヲ定メ五ケ年ヲ以テ相當ト認

メタルモノニシテ其起算點ハ即チ家督相續

人又ハ其法定代理人カ相續權侵害ノ事実ヲ知リタル時ヨリ三年ノ經過シタルトキハ如何ナル事情ノ存スルニ拘ハラス絶對的ニ右ノ請求權ヲ消滅セシムルカ如キハ別ニ說明ヲ要セサルヘシ

法典調査會

第九百七十一條

（理由）華族ノ家督相續ハ一般人民ノ家督相續トハ頗ル其趣キヲ異ニシ特別ノ法令ニ依リテ規定セラルルコトヲ要スルモノナカラス例ヘハ華族ノ戶主カ死亡スルトキハ其承繼人ニ對シ特ニ家督相續ヲ仰付ケラルルカ

如キ手續アリ或ハ華族ノ家督相續ニハ爵其他世襲財産等ノ伴フカ如キ特別ノ関係アルヲ以テ一般人民ノ家督相續ニ関スル本章ノ規定ハ華族ノ家督相續ニ之ヲ適用スルコトヲ得サルモノトセス是レ本條ノ明文ヲ掲クル所以ニシテ固ヨリ至当ノ除外例タルベシ

法典調査會

第二節　家督相續人ノ資格

第九百七十二條

（理由）相續ニ関シテ胎児ヲ既生児ト見做スコトハ胎児ノ利益ヲ保護スルハ至當ノ方法ナルヲ以テ諸國ノ法典ハ概子此趣旨ヲ明示シ

我国従来ノ慣例モ亦元ト異ナルコトナシ而シテ既成法典ハ人事編第二條ニ於テ胎児ノ利益ヲ保護スルニ付テハ胎児ヲ以テ既生児ト見做スベキ概括的ノ原則ヲ掲ケタルニ因リ相續ニ関シテ別ニ之ヲ反覆セザルカ如シト雖モ既ニ發布セラレタル新民法ハ右ニ述

ブル如キ概括的ノ原則ハ実際ノ適用上往々疑義ヲ生セシムルニ因リ寧ロ胎児ノ利益ヲ保護スル必要アル毎ニ明カニ此有ノ権利ヲ認ムルノ正確ナルニ若カサルヲ信シ敢テ既成法典ノ例ニ倣ハサリシニ因リ本案ハ即チ本條ニ依リテ胎児ト雖モ家督相續ニ付テハ

既ニ生マレタルモノト看做スベキ旨ヲ明示
シ以テ法律保護ノ本旨ヲ全カラシメタリ
胎児ハ本條第一項ノ規定ニ因リ家督相続人
タル資格ヲ保有スベシト雖モ若シ胎児カ死
産シテ生マレタルトキハ最初ヨリ特別ノ利
益ヲ受クルコト能ハサリシモノト認メラル
ベキハ固ヨリ至當ノ事ニ属スル然レトモ二三
ノ立法例ニ依レハ出生シタル胎児カ引續キ
生存スル力ヲ備フルニ非サレハ権利ヲ保有
スルコトヲ得ストスルニ反シ他ノ立法例ニ
依レハ單ニ死体ニテ生マレサルコトノミヲ
必要トシ敢テ引續キ生存スル力ヲ有スルヤ

至ヤウ問ハサル力如ニ而ニテ前ノ立法例ハ
其適用上種々ノ疑ヲ生セシムルノミナラス
出生シタル胎児ノ躰力如何ニ因リテ其権利
能力ノ有無ヲ定ムル如キハ甚タ妥當ナラサ
ルニ因リ本案ハ後ノ立法例ニ倣フテ本條第
二項ノ規定ヲ設ケ胎児力死躰ニテ生セシタ
ルトキハ本條第一項ノ規定ヲ適用セサル旨
ヲ明カニセリ

法典調査會

第九百七十三條

理由　本條ハ家督相續人ノ缺格ニ関スル規
定ニシテ一方ニ於テハ既成法典財産取得編
第二百八十八條乃至第二百九十二條ニ刪正

ヲ加ヘ他ノ一方ニ於テハ德義上亦ニ公益上
ノ理由ニ基キ缺格者ノ範圍ヲ擴張セリ即チ
本條第一號ハ家督相續ノ性質ニ基ク缺格ノ
原因ニシテ既成法典財產取得編第二百八十
八條乃至第二百九十一條ハ此點ニ關シ種々
ノ規定ヲ設クト雖モ必竟一個ノ本則ノ適用
ヲ永久ニ非サレハ別ニ明文ヲ要セサル規定
タルニ過キサルヲ以テ本案ハ總テ之ヲ刪除
シテ單ニ本條第一號ノ本則ヲ永久ニ止メタ
リ然レトモ本家相續ノ必要上分家ノ法定ノ
推定家督相續人カ本家ノ家督相續人ト為ル
コトハ從來普通ニ認メラレタル所ニシテ家

ヲ重ンスル立法ノ本旨ニ適スルモノナレバ
本案ハ特ニ本條第一項但書ノ規定ヲ設ケ以
テ既成法典ノ缺點ヲ補ヘリ
本條第二項ハ既成法典財産取得編第二百九
十二條ト同一ノ趣旨ニ基ツクト雖モ被害者
ノ範囲ヲ擴張シタル點ニ於テ之ニ修正ヲ加
ヘタリ蓋シ実際上家督相續人タラシムル為人
ニ敢テ被相續人ニ害ヲ加ヘサルモ自己ノ先
順位ニ在ル家督相續人ヲ死ニ致シ又ハ死ニ
致サントスル者アルハ往々見ル所ニシテ斯
ノ如キ者ヲシテ家督相續人タラシムルコト
ハ何レノ點ヨリ見ルモ決シテ許スベキ限ニ非

法典調査會

サンヲ以テ本案ハ右ノ犯罪者モ亦被相續人ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル者ト同シク家督相續人タルコトヲ得サルモノト為セリ

本條第三號乃至第六號ハ既成法典ニ其例ナシト雖モ此ニ列擧スル者ヲシテ尚ホ且家督相續人タルコトヲ得セシムルニ於テハ德義ニ反シ人情ニ悖ルノミナラス公私ノ利益ヲ害シ保セテ犯罪ヲ誘引スル弊ナシトセス故ニ本案ハ多數ノ立法例ニ倣フテ此等ノ規定ヲ加ヘタルモノニシテ各本號ノ意義ニ付テハ別ニ說明ヲ要セサルベシ

第三節　家督相續人ノ順位

第九百七十四條

理由　本條ハ既成法典財産取得編第二百九十五條第一項ヲ補正シテ家督相續人ノ法定ノ順位ヲ定メタリ即チ本條第一項第一號乃至第三號及ビ第五號ノ規定ハ總テ既成法典ノ趣旨ニ從フモノナリト雖モ既成法典ハ嫡出子タル女子ト私生子タル男子トノ間ニ於テハ順位ノ先後ヲ指定セサルニ因リ男子ハ女子ニ先タツベキ通則ニ從ヒ私生子ト雖モ嫡出子タル女子ニ先タツベキカノ疑ヲ生セシハルヱトナシトセス然レトモ私生子ハ假

法典調査會

今男子タリトモ嫡出子ニ先タツコトヲ許サ
ザルハ弊ント雖朋ヲ要セサル所ナレハ本案
ハ特ニ本條第一項第四号ノ規定ヲカヘ其趣
旨ヲ明カナラシメタリ而シテ嫡出子ト私生
子ト其親タル戸主ノ家ニ在リテ其間ニ家督
相続順位ノ関係ヲ生スル場合ハ戸主カ女子

法典調査會

タルトキニ限ルモノニシテ私生子カ既ニ男
戸主ノ家ニ在ルトキハ之レ庶子タルベキニ
因リ男戸主ノ家ニ在リテ嫡出子ト私生子ノ
家督相続順位ノ関係ヲ生スルコトナカルベ
シ
庶子カ之ヲ認知シタル父母ノ婚姻ニ因リ又

私生子カ其父母ノ婚姻中ノ認知ニ因リテ嫡
出子タル身分ヲ取得シ或ハ養子カ縁組ニ因
リテ嫡出子タル身分ヲ取得シタル場合ニ於
テハ此等ノ者カ往々自己ヨリ以前ノ嫡出子
ヨリ年長ナルコト多ク従テ年長者カ年少者
ニ先タツベキ通例ニ従ヒ年少ノ嫡出子カ家
督相続ノ順位ニ在キ既ニ享有シタル此者ノ
権利ヲ害スルモ尚且之ニ先タツベキカノ
疑ヲ生セシムルニ足ル如シトモ若シ果シテ
斯ノ如クナレハ修理ニ反シ法律保護ノ本旨
ニ悖ルコト更ニ疑ナキ所ナレハ本案ハ特ニ
本條第二項ノ明文ヲ掲ケ法定ノ原因ニ由リ

テ新ニ嫡出子タル身分ヲ取得シタル者ハ家
督相續ニ付テハ嫡出子タル身分ヲ取得シタ
ル時ニ生マレタルモノト看做シ以テ他ノ嫡
出子ノ利益ヲ保全スルモノニシテ改成法典
ニ其例ナシト雖モ立法ノ本旨ニ於テハ敢テ
本案ト異ナルコトナカルベシ

法典調査會

第九百七十五條

(理由) 本條ハ改成法典ニ其例ナキニ拘ハラ
ス改得ノ家督相續權ヲ保護スル為メニ特ニ
之ヲ設ケタリ蓋シ第七百三十五條及ヒ第七
百三十六條ノ規定ニ依リテ戸主ノ家ニ入リ
タル直系卑屬ハ即チ戸主ノ子ニシテ其家族

タル者ナレハ別段ノ定ナキ限ハ前條ノ通則
ニ從ヒ法定家督相續人トシテ相當ノ順位ヲ
有スベキハ當然ノ結果タルベシ然レトモ此
等ノ者カ元来他家ニ在リタル者ナレハ新ニ
戸主ノ家ニ入ルニ先タチ其嫡出子又ハ庶子
タル他ノ直系卑属カ既ニ法定家督相続人ト

法典調査會

シテ其家ニ存スルニ拘ハラス之ヲ排除シテ
新ニ家族ト為リタル者ヲ家督相續人タラシ
ムルコトハ條理ニ反スルノミナラス本来戸
主ノ家ニ在リテ既ニ法定家督相續人タル直
系卑属ノ権利ヲ害スルモノトモハサルベカ
ラス是レ即チ本條ハ新ニ家族ト為リタル直

至親屬ハ嫡出子又ハ庶子タル他ノ直至親屬
ナキ場合ニ限リ前條ニ定メタル順序ニ從ヒ
法定家督相續人ト為ルコトヲ得ベキ旨ヲ明
カニシタル所以ナリ

第九百七十二條

〔理由〕推定家督相續人アル者ト雖モ婚養子

ヲ為シ得ルコトハ既ニ第八百四十三條ノ明

示スル所ニシテ推定家督相續人タル女子ニ

婚養子ヲ迎ヘタル場合ニ於テ婚養子カ相續

權ヲ受クベキハ當然ノ事ニ屬スト雖モ推定

家督相續人ノ姉妹ニ迎ヘタル婚養子ヲシテ

推定家督相續人ヲ排除シテ相續權ヲ受ケシ

法典調査會

ムルノ不條理ナルコトハ別ニ辯明ヲ要セス

如レトモ既ニ推定家督相續人アル者ト雖モ

壻養子ヲ為スコトヲ許セタル以上ハ推定家

督相續人ノ姉妹ノ為メニスル壻養子ハ推定

家督相續人ヲ排除シテ自ラ相續權ヲ受クベ

キモノナルカヲ疑ハシムルニ足ルベシ之レ

法典調査會

本條ノ明文ヲ掲ケテ推定家督相續人ノ既得

ノ相續權ヲ保全スル所以ナリ

第九百七十七條

（理由）家督相續ニ關シテハ嫡孫承祖ノ慣例ハ

從來普通ニ認メラレタル所ナレハ本案モ既

成法典財産取得編第二百九十五條第二項ト

同一ノ趣旨ニ基キ本條ノ規定ヲ設クルモノニシテ只既成法典同項ノ明確ナラサル所ヲ補正シタルニ過キス

第九百七十八條

（理由）本條ハ所謂廃嫡ニ関スル規定ニシテ既成法典財産取得編第二百九十二條第二百九十七條及ヒ第二百九十八條第一項ノ一部ニ修正ヲ加ヘ（タリ）蓋シ推定家督相続人ヲ廃除スルコトハ一身一家ニ重要ナル関係ヲ有スルモノナレハ廃除ノ原因タルベキ事由ハ法律上之ヲ豫定スルヲ以テ其當ヲ得タルモノト為スノミナラス裁判所ヲシテ廃嫡ノ理

法典調査會

由ヲ査定シテ其許否ヲ決セシムルコトハ推定家督相續人ノ權利ヲ保護シ廢嫡ノ濫行ヲ豫防スルニ付キ適當ノ方法ト認ムル因リ既成法典ハ身分取扱更ニ申述シテ廢嫡ヲ為シ得ベキコトヲ認ムト雖モ本案ハ裁判所ニ其請求ヲ為スベキモノト改メタリ

既成法典ハ失踪ノ宣告ヲ以テ廢嫡ノ原因ト為スト雖モ既ニ發布セラレタル新民法第三十一條ノ規定ニ依レハ失踪ノ宣告ハ死亡ノ推定タル効力ヲ有スルモノナレハ推定家督相続人カ失踪ノ宣告ヲ受ケタル以上ハ殊更ニ廢嫡ノ手續ヲ要セサル事リ本案ハ既成

法典財産取得編第二百九十七條第一項ヲ刪除セリ而シテ同條第二項ハ民事上禁治産及ビ準禁治産ヲ以テ廃嫡ノ原因ト為スト雖モ此等ノ宣告ヲ受ケタル者ハ尚ホ能ク法定代理人又ハ保佐人ノ保護ヲ得テ家督相續人タルコトヲ得ベキモノナレバ禁治産又ハ準禁治産ヲ以テ當然廃嫡ノ原因ト認ムルコトハ頗ル妥當ナラサルニ因リ本案ハ本條第一項第二項及ビ第四項ノ規定ヲ設ケ実際上推定家督相續人カ家政ヲ執ルニ堪ヘサル心身ノ状況ニ在ルトキ又ハ浪費者トシテ準禁治産ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナキトキハ其廃除ヲ

法典調査會

請求スルコトヲ得ト改メタリ

次ニ既成法典ハ祖父母、父母ニ對スル罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルコトヲ以テ廢嫡ノ原因ト為スト雖モ祖父母ニ對スル犯罪ニ因リテ相續權ヲ失ハシムルコトハ那カ廣キニ失スト云ハサル〳〵カラサルニ反シ父母ニ對スル重行ハ犯罪トシテ處刑セラルルニ非サレハ廢嫡ノ原因タルニ至ラスト為スハ狹キニ失スト云ハサル〳〵カラサルニ因リ本條第一項第一號ハ被相續人ニ対シテ虐待ヲ為シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルコトヲ以テ廢嫡ハ理由ト為セリ其他既成法典ハ重禁錮

一年以上ノ處刑及ヒ重罪ニ因シハ處刑ヲ以テ廢嫡ノ原因ト為スト雖モ畢竟斯ノ如キ處刑ノ事實ヲ以テ廢嫡ノ原因ト為スコトハ主トシテ此等ノ刑ヲ受ケタル者ヲシテ家督相續ヲ為サシムルコトハ家名ヲ汚カスト云フニ存スルモノナレハ本條第一項第三號ハ此趣旨ヲ明白ナラシムル為メ家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルコトヲ以テ廢嫡ノ理由ト為シ得ヘキ旨ヲ明言シ之ニ依リテ犯罪ノ性質ヲ限定スルト同時ニ必スシモ刑罰ノ重キコトヲ要セサル趣旨ヲ明カナラシメタリ

終りに本條第二項ヲ設ケタル所以ハ元来推定家督相續人ヲ廃除スルコトハ重大ナル事件タルニ因リ法律上豫メ其原因タル事由ヲ指定スルコトヲ要スト雖モ實際上種々ノ事情ノ存スル アリテ本條第一項ニ列挙セル事由以外ノ原因ニ基キ廃嫡ヲ許サザルベカラ

サル場合ナレトセサレハ寧ロ例ヘハ極メテ貧困ナル家ノ推定家督相續人ヲ他家ニ收養シテ之ヲ教育セント欲スル場合ノ如キハ廃嫡ノ上本人ヲシテ他家ニ入ルコトヲ得セシムルコトハ実際上有益且必要ニシテ從来ノ慣例モ亦普通ニ斯ノ如キ廃嫡ノ理由ヲ認ム

ルモノトス既ニ本條第二項ハ第一項ニ列挙セル事由以外ニ於テ正當ノ事由アルトキハ被相續人ヲシテ廃嫡ノ請求ヲ為スコトヲ得セシムト雖モ濫リニ之ノ請求スルコト勿カラシムル為メ此場合ニ於テハ特ニ親族會ノ認許ヲ受ケサルベカラサルモノト為セリ

法典調査會

第九百七十九條

（理由）遺言ヲ以テ廃嫡ノ意思ヲ表示スルコトハ敢テ之ヲ禁スベキニ非ラスト雖モ既成法典財産取得編第二百九十八條第一項ノ如ク單ニ遺言書ヲ以テ廃嫡ヲ為スコトヲ得ベキ旨ヲ示スニ止ムルトキハ遺言カ其效力ヲ生

スルト同時ニ廃嫡ノ效果ヲ生スルモノニシテ若シ斯ノ如クナレハ本案カ既ニ前條ニ於テ廃嫡ハ一身一家ニ重要ナル関係ヲ有スルニ因リ之ヲ為スニハ特ニ裁判所ニ請求スルコトヲ要シタル趣旨ニ抵觸スルモノトスハサルヘカラス故ニ本條ハ被相續人カ遺言ヲ以テ廃嫡ノ意思ヲ表示シタルトキハ遺言ノ效力發生ノ後遺言執行者ハ遅滞ナク廃嫡ノ請求ヲ裁判所ニ為スヘキモノトシ立法ノ本旨ヲ貫徹セシメタリ

第九百八十條

（理由）本條ハ廃嫡ノ取消ニ関スル規定ニシ

法典調査會

テ既成法典財産取得編第二百九十八條第二
項及ヒ第三項ニ修正ヲ加ヘタリ即チ既成法
典カ廢嫡ノ取消ヲ為スニハ身分取扱吏ニ申
述スハヲ以テ足ルト為スト雖モ本案ハ既ニ
裁判所ニ請求シテ廢嫡スヘキヲト為シタ
ルニ因リ其取消モ亦之カ裁判所ニ請求スヘキ

法典調査會

モノト為セリ而シテ本案カ特ニ本條第二項
ノ規定ヲ加ヘタル所以ハ第九百七十八條第
一號ノ場合ニ於テハ廢嫡ノ原因タル推定家
督相續人ノ惡行ハ單ニ被相續人ノ身上ニ關
係ヲ有スルニ止マラスシテ被相続人ニ
於テ之ヲ宥恕スル以上ハ何時ニテモ相續權

ヲ由後スルコトヲ得セシムルヲ以テ至当ト
為スベシ廃嫡ノ原因ハ推定家督相続人ノ身
上ニ存スル場合ト其趣ヲ異ニスルハナリ
其他既成法典ハ遺言ヲ以テ廃嫡ノ取消ヲ為
スコトヲ認メサルハ如何ト雖モ実際上ニ於
テハ被相続人カ死亡ノ際ニ廃嫡ノ取消ヲ為

スコト多カルベシ又其事由ヲ制限スル理由
ナキヲ以テ本按ハ遺言ヲ以テ廃嫡ノ取消ヲ
為スコトヲ認メ此場合ニ於テハ遺言執行者
ヲシテ廃嫡ノ遺言ニ関スルト会一ノ手続ニ
従ハシムルヲ以テ至当ト認ムルニ因リ本條
第三項ハ即チ廃嫡ノ取消ニ付テハ前條ノ規

定ヲ準用スヘキモノト為セリ

第九百八十一條

（理由）本案ハ既ニ被相續人カ直チニ廃嫡ノ請求ヲ為スト遺言ヲ以テ廃嫡ノ意思ヲ表示スルトキハ問ハス總テ裁判所ノ認許ヲ受クヘキモノト為シタルニ因リ被相續人カ廃嫡ノ請求ヲ為シタル後裁判確定前ニ死亡シ或ハ遺言執行者カ為シタル廃嫡ノ請求ニ對シテ未タ裁判カ確定ヤサルトキハ其間何人カ戸主權ヲ行使スヘキカ又被相續人ノ遺産ハ如何ニシテ取扱フヘキカト付キ法律上豫メ適當ノ處置ヲ指定スルコトヲ要スル甚シ即チ特

法典調査會

ニ本條規定ヲ設クル所以ニシテ本案ハ左ノ場合ニ於テハ怪モ不在者ノ財産管理ニ関シハ場合ノ如ク裁判所ヲシテ親族利害関係人又ハ検事ノ請求ニ因リ戸主権ノ行使及ビ遺産ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命セシムル方法ヲ以テ至當ノ方法ト認メタリ蓋シ本條ノ規定ハ既成法典ニ存セサル所ナリト雖モ之レ既成法典ニ於テハ單ニ身分取扱更ニ申述シテ直チニ廃嫡ヲ為シ或ハ遺言ノ効力発生ト同時ニ廃嫡ノ効果ヲ生セシムルニ因リ本條ノ必要ヲ感セサリシニ因ルノミ

其他本條第一項ノ規定ニ因リ遺産管理人カ

法典調査會

選任セラルベキハ當然ニシテ此場合ニ於テハ在ノ管理人ニ付テモ亦不在者ノ財産管理人ニ對スル如ク適當ノ監督方法ヲ定メ權限ノ範囲ヲ指定シ其他相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ要スルニ因リ本案ハ特ニ本條第二項ノ規定ヲ設ケ第一項ノ場合ニ於テハ不在者ノ財産管理ニ關スル第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス（キモノト為セリ）

第九百八十二條

（理由）本條ハ家督相續人ノ指定及ビ其取消ニ關スル規定ニシテ既成法典財産取得編第二百九十九條ニ修正ヲ加ヘタリ即チ既成法

典ハ家督相續人ヲ指定スルコトヲ得ヘキ本則ヲ前提シテ法文上ニハ却テ之ヲ許ササル場合ヲ規定スト雖モ聊カ体裁ヲ失スルノミナラス家督相續人ヲ指定スルコトヲ得ルヤ否ヤハ既ニ法律ノ明文ヲ要スベキ事タルニ因リ本案ハ本條第一項ニ於テ寧ロ法律上ノ本則ヲ掲ケ法定ノ推定家督相續人ナキトキニ限リ被相續人ハ家督相続人ヲ指定スルコトヲ得ベキ旨ヲ明カニセリ然レトモ既成法典同條但書ノ如ク右ノ本則ニ違ヒタル指定ト雖モ被相續人ノ死亡ノ日ニ法定家督相續人アラサルトキハ有效ト為スヘキ旨ヲ明示

セルハ強ヒト疑ヲ容レサル所タルヲ以テ本
條ハ之ヲ刪除セリ
家督相續人ノ指定ハ單独行為ナルヲ以テ被
相續人ハ隨意ニ之ヲ取消スコトヲ得サルベ
カラズ然レトモ被指定者カ指定ニ應シテ系
譜ノ意思ヲ表示シタル後ト雖モ左ノ指定ヲ

法典調査會

取消スコトヲ得ルヤ否ヤニ付キ疑ナシトセ
ス而シテ被指定者カ一旦指定ニ應シタル以
上ハ假令此者ヲシテ家督相續ヲ為サシムル
コトヲ得サル正當ノ事由アルモ他ノ指定ヲ
取消スコトヲ得ストセハ実際上不當ノ結果
ヲ生セシムルノミナラス敢テ法定ノ推定家

督相続人ト雖モ之ヲ廢除スルコトヲ得ベキ
旨ヲ認メタル立法ノ趣旨ニ抵觸スベシ故ニ
本案ハ特ニ本條第二項ノ規定ヲ設ケ家督相
續人ノ指定ハ之ヲ取消スコトヲ得ヘキ旨ヲ
明カニセリ

第九百八十三條

理由　本條ハ家督相續人ノ指定及ビ取消ノ
効力発生ノ時期ヲ規定スルモノニシテ既成
法典ニ其例ナシト雖モ此事タル十一身一家
ニ重要ナル関係ヲ有スルモノナレバ左ノ効
力発生ノ時期ハ務メテ判然タラシムルコト
ヲ要ス之レ本案ハ隠居、婚姻等ノ效力発生ノ

法典調査會

時期ニ関スル例ニ従ヒ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第九百八十四條

（理由）改成法典財産取得編第三百條ハ遺言書ヲ以テスル人ノ外普通ノ意思表示ニ依リテ家督相續人ヲ指定スルコトヲ許サスト雖モ斯ノ如キ制限ヲ設クルコトハ其必要ナキノミナラス實際上甚タ不便ヲ感セシムベキ歟本案ノ如ク家督相續人ノ指定及ヒ其取消ハ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其効力ヲ生スルトスルニ於テハ普通ノ意思表示ニ依リテ之ヲ為サシムルモ敢テ弊害ヲ生スルコトナカ

ルベシ其他既成法典ハ單ニ家督相續人ノ指定ニ付テノミ其方式ヲ定メ指定ノ取消ニ付キ之ヲ定メサルハ本案ノ主義ト相容レサル所トス既ニ本案ハ家督相續人ノ指定及ビ其取消ハ共ニ普通ノ意思表示ニ依リテ之ヲ為スコトヲ得ルヲ本則トシ此點ニ付テハ別ニ

法典調査會

明文ヲ要セサルヲ因リ本條ニ於テハ寧ロ遺言ヲ以テモ家督相續人ノ指定又ハ其取消ヲ為スコトヲ得ベキ旨ヲ明カニセリ而シテ此場合ニ於テ遺言ノ効力ガ發生スルト同時ニ右ノ指定又ハ其取消ガ効力ヲ生ズルニ非ズシテ遺言執行者ノ届出ニ因リテ之ヲ生セシ

ハルコトノ至當ナルハ他ノ場合トノ權衡上
既ニ明白ナレハ本條ハ即チ遺言執行者ニ對
シ家督相續人ノ指定又ハ其取消ヲ包含セル
遺言カ効力ヲ生シタルトキハ遅滞ナク之ヲ
届出ツヘキ義務ヲ負ハシメタリ

第九百八十五條

（理由）本條ハ家督相續人ノ選定ニ関スル規
定ニシテ既成法典財産取得編第三百一條及
ヒ第三百二條ニ相當スル只本案カ入夫又ハ壻
養子ナリシ被相続人ノ配偶者ニ限リテ之ヲ
第一順位ニ置キタル所以ハ主トシテ家ヲ重
ンシ其血統ヲ斷絶セシメサラントスル趣旨

ニ基クモノニシテ固ヨリ至当ノ修正タルベ
キ其他既成法典ハ兄弟姉妹ノ親属親中ヨリ
家督相続人ヲ選定スル場合ニ付キ細則ヲ指
定スト雖モ既ニ斯ノ如キ家族中ヨリ家督相
続人ヲ求ムル場合ニ於テハ寧ロ其中ニ於テ
度々適当ノ者ヲ選フコトヲ得セシムルヲ以
テ實際ノ事情ニ適スルモノト認ムルニ因リ
本案ハ本條第三號ニ於テ單ニ兄弟姉妹ノ直
系卑属中ヨリ選定スベキ旨ヲ手スニ止メタ
リ

法典調査會

第九百八十二條

理由　家督相続人選定ノ場合ニ於ケル配偶

者又弟姉妹又ハ其直系卑属ノ相續順位ハ之ヲ変更スルコトヲ得ルカ又ハ法定又ハ指定家督相續人ナキトキハ右ニ述ブル者ノ中ヨリ必ス家督相續人ヲ選定セサルベカラザルカニ付テハ既成法典ハ法定ノ順序ニ違ハスシテ必ス選定セサルベカラスト為スモノヲ

ハコトハ同財産取得編第三百一條及ヒ第三百二條ノ規定ニ徴シテ殆ント疑ナキカ如シ然レトモ右ニ列挙スル者ハ元来被相續人ノ直系卑属ノ如ク法律上当然相續権ヲ有スルモノニ非ス且從来ノ慣例ニ依ルモ此等ノ者ヲシテ家督相續ヲ為サシムルコトハ絶テ親

族ノ協議ニ任カシタルモノニシテ假令家督相續人ナキ場合ト雖モ必スシモ右ニ列挙スル者ノ中ヨリ之ヲ選定セザルベカラズト為シタルモノニ非ス從テ此等ノ者ノ間ニ於テル家督相續ノ順位ノ如キモ敢テ之ヲ一定セシニ非スシテ只行政上ノ便宜ノ為メ漸ク相當ノ順位ヲ認ムルニ至リタルノミ故ニ本案ハ既ニ前條ニ於テ法律上ノ通則トシテ法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ對シ家督相續人ノ選定ニ付キ相当ノ範囲及ヒ一般ノ順序ヲ指定スト雖モ之ヲ以テ全令的ノ規定ト為サスシテ特ニ本條ノ例外ヲ設ケ家督相

法典調査會

繼人ヲ選定スル権利ヲ有スル者ハ左ノ順序ヲ変更シ又ハ選定ヲ為サザルコトヲ得ヘキ旨ヲ認メ之ニ依リテ実際ノ事情ト従来ノ慣例ニ適セシメタリ如レトモ選定権ヲ有スル者カ濫リニ本條ノ権利ヲ行使スルトキハ既ニ家督相續人ノ選定ノ範囲及ヒ其順序ヲ指定シタル立法ノ本旨ニ悖ルヲ以テ本案ハ本條ノ権利ヲ行使スルニ付テハ正當ノ事由ノ存スルコト及ヒ裁判所ノ許可ヲ受クルコトヲ必要ト為セリ

第九百八十七條

（理由）本條ハ被相続人カ入夫又ハ壻養子ニ

非サル場合ニ於テハ其配偶者及ビ被相續人
ノ家ニ在ル直系尊屬ノ家督相續ノ順位ニ関
スル規定ニシテ既成法典財産取得編
ト殆ント同樣ノ趣旨ニ從フモノ
トスル蓋シ配偶者又ハ直系尊屬カ家督相續ヲ
為スハ頗ル異例ニ屬スト雖モ既ニ第九百八
十五條ニ於テ主トシテ家ヲ重ンスル趣旨ニ
基キ被相續人カ入夫又ハ壻養子ナル場合ニ
於テハ家督相續ニ付テハ其配偶者ヲシテ兄
弟姉妹等ニ先ケテ第一順位ヲ保ツシメタルモ
ノニシテ假令被相續人カ入夫又ハ壻養子ニ
非サル場合ト雖モ第九百八十五條ノ規定ニ

法典調査會

依りテ家督相續人タル者ナキハ被相續人ノ配偶者ヲシテ家督統相ヲ為サシムルコトハ一般ノ人情ニ適シ且従来ノ慣例ニモ合フモノト謂ハサルヘカラス故ニ本條ハ第九百八十五條第一項ニ該當セサル配偶者ト雖モ同條ノ規定ニ依リテ家督相續人タル者ナキトキハ他ノ者ニ先チ家督相續ヲ為スコトヲ得セシムルモノニシテ此配偶者モナキトキニ及ヒ被相續人ノ家ニ在ル直系尊屬ヲシテ相續順位ニ立タシムルモノトス而シテ此直系尊屬ノ範圍ヲ限定シテ被相續人ノ家ニ在ル者トシ又直系尊屬間ニ於テハ親等ノ最モ近

法典調査會

キ者ヲ先ニスル點ニ於テハ固ヨリ既成法典ノ例ニ從フト雖モ既成法典ノ如ク直系尊屬ノ男女ノ區別ニ從ヒ相續順位ヲ異ニスベキ旨ヲ明示セサルハ聊カ缺點ト謂ハサルベカラサルニ因リ本條第二項ハ特ニ但書ノ規定ヲ設ケ親等ノ同シキ直系尊屬間ニ在リテハ

法典調査會

男ヲ先ニスベキ旨ヲ明カニセリ其他既成法典ハ直系尊屬ノ家督相續ヲ以テ殊更ニ本人ノ任意ニ出テシムベキ旨ヲ明示スト雖モ是レ固ヨリ言フヲ要セサル所ナルベシ

第九百八十八條

理由　本條ハ他人ヲ家督相續人ニ選定スル

場合ニ関スル規定ニシテ既成法典財産取得
編第三百五條ト同一ノ趣旨ニ基クト雖モ他
人ヲシテ家督相續ヲ為サシムル場合ニ於テ
モ亦先ツ被相續人ノ親族及ビ其家ニ多少ノ
関係アル者ヲ盡シタル後ニ至リ他人ニ及ホ
スベキヲ以テ至當ト認ムルニ因リ本案ハ特
ニ本条第一項ノ規定ヲ設ケテ此趣旨ヲ明カ
ニ若シ本項中ニ掲クル者ノ中ニ家督相續人
タル能キ者ナキ場合ニ於テハ第二項ノ規定
ニ依リ他人ノ中ヨリ家督相續人ヲ選定スベ
キモノト為セリ然レトモ之レ固ヨリ從来ノ
慣例ト旧制ノ本旨トヲ斟酌シテ一般ノ順序

ヲ定メタルニ過キサレハ正當ノ事由ノ存スルアリテ直チニ他人ヲ選定スルコトヲ要スル場合ニ於テハ強ヒテ此順序ニ從ハシムベキ必要ナキニ因リ本條第三項ハ此場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ハラス裁判所ノ許可ヲ得テ他人ヲ選定スルコトヲ得トシ以テ実際ノ事情ニ適セシメタリ

法典調査會

第四節　家督相續ノ効力

（理由）既成法典ハ家督相續ノ通則中ニ於テ主トシテ戸主ノ死亡ニ因ル家督相續ノ効力ニ關スル一般ノ規定ヲ掲クルニ止マリ隠居、入夫婚姻又ハ國籍喪失ニ因ル家督相續ノ場

会ニ於テ其効力ニ関シ立法上ノ斟酌ヲ加ヘサルベカラサル事項アルニ拘ハラス別ニ何等ノ規定ヲ設ケサルハ其缺點ト謂ハサルベカラサルニ因リ本案ハ特ニ本節ヲ設ケテ家督相續ノ効力ニ関スル通則ヲ纒括シ既成法典ノ缺點ヲ補充スルト同時ニ編纂ノ財産ヲ保ムヲ目的トセリ

法典調査會

第九百八十九條

（理由）本條ハ既成法典財産取得編第二百九十四條第一項ヲ修正シテ家督相續ノ一般ノ効力及ビ其発生ノ時期ヲ明カナラシムルモノトス蓋シ既成法典ハ被相續人ノ姓氏、系統、

貴族等ヲ承継スルヲ以テ家督相續ノ効力ト為スベキ旨ヲ明示スト雖モ斯ノ如ク相續事項ヲ例示スルコトハ其必要ナク又既成法典ノ如ク家督相續人ハ一切ノ財産ヲ相續スト曰フニ止マルトキハ財産権之外ノ権利ハ之ヲ承継セサルカノ疑ヲ生セシムルニ足ルヲ以テ本案ハ寧ロ概括的ニ家督相續人ハ前戸主ノ有セシ一切ノ権利義務ヲ承継スルヲ以テ家督相續ノ一般ノ效力トシ権利義務ノ性質其他隠居、入夫婚姻又ハ國籍喪失ノ場合ニ於ケル特別ノ事情ニ因リ左ノ通則ニ對シテ制限ヲ附スベキ要ニ在テハ各本條ニ於テ適

法典調査會

當ノ例外的規定ヲ掲ケタリ

次ニ既成法典ハ家督相續ノ効力発生ノ時期ニ付キ別ニ規定ヲ設ケスト雖モ家督相續ノ如キ前戸主ノ一切ノ権利義務ヲ他ニ移轉セシムル重大ナル事項ハ何時ヨリ此効力ヲ生セシムルモノナルカヲ明カニシ法律関係ノ

法典調査會

安固ヲ保タサルベカラス殊ニ遺産相續ニ付テハ其承認又ハ抛棄ナルコトヲ認メラルルニ因リ家督相續ノ効力モ亦何時ヨリ発生スルモノナルカニ付キ疑ヲ生セシムルニ足ル故ニ本案ハ家督相續ハ相續開始ノ時ヨリ其効力ヲ生スベキ旨ヲ明カニシ之ニ依リテ右

ノ疑議ヲ豫防スルト同時ニ一家ノ間断ナク
存續スルコトヲ確保セリ

第九百九十條

理由　本條ハ家督相續ノ特權ヲ組成スル權
利ヲ明示スルモノニシテ既成法典財産取得
編第二百九十四條第二項ニ多少ノ修正ヲ加
ヘタリ即チ既成法典ハ世襲財産ノ系統ヲ以
テ右ノ特權中ニ加フト雖モ世襲財産ノ系統
ハ一般ノ家督相續ニ伴フモノニ非サレハ本
案ハ之ヲ特別法ニ譲リ又商號及ビ商標ノ如
キハ必スシモ家督相續ノ特權ニ屬スルモノ
ニ非スシテ寧ロ營業ト共ニ之ヲ他ニ譲渡ス

コトヲ得ルモノナレハ本案ハ之ヲ刪除セリ

其他既成法典ニ所謂墓地ヲ改メテ墳墓ト為シタル所以ハ單ニ墓地ト同フトキハ土地其モノヲ指スニ止マルカ如キ而シテ此土地ハ或ハ共有地タルコトアリ或ハ寺領地タルコトアリテ必スシモ一家ノ私有地タルニ限ラサルヲ以テ斯ノ如キ土地其モノノ所有権ハ家督相續ノ特権ニ屬スルモノニ非サル旨ヲ明カナラシメントスルニ外ナラス

第九百九十一條

理由　家督相續人ハ一般ノ通例トシテ前戸主ノ有セシ一切ノ財産権ヲモ承継スルコト

ハ第九百八十九條ノ解釈上更ニ疑ナキ所ニ
シテ既成法典財産取得編第二百九十四條第
一項ハ時ニ此趣旨ヲ明示スト雖モ此通則ハ
戸主ノ死亡ニ因ル家督相續ノ場合ニ對シ至
當ノ規定タルニ拘ハラス隱居又ハ入夫婚姻
ニ因ル家督相續ノ場合ニ對シテハ往々實際
ノ事情ニ適セサル結果ヲ生スルコトナシト
セス何トナレハ隱居者又ハ入夫婚姻ヲ為ス
女戸主ハ隱居料其他小使費トシテ相當ノ財
産ヲ保有セントスルコトハ其事情敢テ怪
ムヘキ限ニ非サルノミナラス此事タルヤ從
來普ク行ハレタル風習ニ屬スルヲ以テ若シ

隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テモ右ニ述ブル所ノ通則ヲ適用シテ前戶主ノ方セシ一切ノ財産權ハ必ス相續人ニ移轉スルモノト為スニ於テハ法律干渉ノ適度ヲ失シ實際ノ事情ニ反スルニ至ルハナリ故ニ本案ハ既成法典ニ其例ナキニ拘ハラス特

法典調査會

ニ本條ノ規定ヲ設ケ隱居者及ヒ入夫婚姻ヲ為ス女戶主ハ家督繼承ヲ為スニ尚ホ多少ノ財産ヲ留保シテ自己ノ利益ニ供スルコトヲ得ベキ旨ヲ明カニシ第九百八十九條ノ通則ニ對シテ一種ノ例外ヲ揭クト雖モ右ノ留保ヲ為シタル人確証ヲ存セスシテ隨意ニ留保ヲ

為サシムルニ於テハ徒ニ紛爭ヲ生セシムル
弊ヲ免レサルノミナラス第九百八十九條ニ
掲クル所ノ家督相續ノ効力ニ関スル一般ノ
通則ヲ信シテ取引ヲ為ス第三者ハ往々詐欺
ニ陥ルコトナシトセス故ニ本案ハ隱居者又
ハ入夫婚姻ヲ為ス女戸主カ其財産ヲ留保セ

シト欲セハ必ス公正証書其他確定日附アル
証書ニ依リシヲ為サザルベカラストシ右ニ
述ブル如キ弊害ヲ豫防セリ其他家督相續人
ニ属スヘキ遺留分ハ公私ノ利益ニ基ク特別
ノ制度タルニ因リ隱居者又ハ入夫婚姻ヲ為
ス女戸主カ其財産ヲ過分ニ留保スルノ餘家

督相續人ノ遺留分ヲ害スベカラサルコトハ更ニ辯明ヲ要セサル所ナルヲ以テ本案ハ特ニ本條但書ノ規定ヲ設ケ此趣旨ヲ明カナラシメタリ

第九百九十二條

（理由）家督相續ニ因リ前戸主ノ有セシ權利義務ハ相續人ニ移轉スルヲ以テ一般ノ通例ト為ス以上ハ爾後前戸主ノ債權者ハ右ノ相續人ニ対シテ辯濟ノ請求ヲ為スコトヲ得ルモ前戸主ニ對シテハ最早債權ヲ行使スルヲトヲ得サルヲ以テ當然ノ事理ト謂ハザルベカラズ而シテ戸主ノ死亡ニ因ル家督相續ノ

場合ニ於テハ此事理ニ從フノ外ナシト雖モ
隱居又ハ女戶主ノ入夫婚姻ニ因ル家督相續
ノ場合ニ於テハ隱居者又ハ女戶主ノ利益ノ
為メ並ニ実際ノ事情ニ通セシムル為メ既ニ
前條ニ於テ此等ノ者ヲシテ多少其財産ヲ留
保スルコトヲ得セシメタルニ因リ此場合ニ
於テモ尚ホ事理ニ拘泥シテ前戶主ノ債權者
ハ既ニ家督ノ譲渡ニタル隱居者又ハ女戶主
ニ對シテ辨償ノ請求ヲ為スコトヲ得スト為
スニ於テハ債權者ノ利益ヲ害スルコト更ニ
辨明ヲ要セサルノミナラス隱居又ハ女戶主
ノ入夫婚姻ニ因リ往々債權者ヲ詐害スル弊

法典調査會

ヲ免しせんべし故に本案ハ既成法典に其例ナシト雖モ債権者ノ利益ヲ保護スル為メ特に本條ノ規定ヲ設ケ隠居又ハ女戸主ノ入夫婚姻に因ル家督相續ノ場合に於テハ前戸主ノ債権者ヲシテ尚ホ其前戸主に對シテモ辨済ノ請求ヲ為スコトヲ得セシムルモノニシテ

法典調査會

之に依リテ俄リ実際ノ事情に適スルコトヲ得ルモノトス

以上説明スル所ノ特別規定に因リ前戸主ノ債権者ハ其前戸主に對シテ辨済ノ請求ヲ為スコトヲ得ルに於テハ更に家督相續人に對シテモ辨済ノ請求ヲ為スコトヲ得ルヤ否ヤ

ニ付キ疑ヲ生セシムルコトナシトセス然し
トモ前戸主ノ債権者ヲ而シテ其前戸主ニ對し
テ辨済ノ請求ヲ為スコトヲ得ルハ法律ノ特
別保護ヲ与フルニ因リ之カ為メニ家督相続人ニ對
スル債権ノ行使ヲ妨クヘキ理由ナキヲ以テ
本條ハ時ニ但書ノ規定ヲ設ケ右ニ述ブル如
キ疑ヲ生スルコト勿カラシメタリ

法典調査會

第九百九十三條

理由　抑モ國稅ノ喪失ハ本人ノ意思ニ基リ
ト雖トモ問フ之ニ因リテ本人ハ自己ニ属
スル諸種ノ私權ヲモ抛棄セントスルモノニ
非ス寧ロ之ヲ保有セントスルモノナレバ

國籍喪失ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テ第九百八十九條ノ通則ニ從ヒ前戸主ノ有セシ權利義務ヲシテ當然相續人ニ移轉セシムルニ於テハ實際上ノ必要ナリシテ國籍喪失者ノ利益ヲ害シ其意思ニ反スルコト甚シカルベキノミナラス既ニ一般ノ通則トシテ外國人ニモ私權ノ享有ヲ認許シタル立法ノ本旨ニ抵觸スル嫌ナシトセス甚シキ即チ本案ハ既成法典ニ其例ナシト雖モ特ニ本條ニ於テ國籍喪失ニ因ル家督相續ノ效力ヲ限定シ國籍喪失者ノ家督相續人ハ戸主權及ヒ家督相續ノ特權ニ屬スル權利ニ限リ當然之ヲ承繼スル

コトヲ得ハ之ニ止マラン旨ヲ明カニシ其他ノ権
利ハ國籍ヲ喪失シタルニ拘ハラス外人ヲシ
テ尚ホ之ヲ保有セシメ唯我法律ノ下ニ於テ
享有スルコトヲ得サルニ至リタル私権ハ適
宜ニ之ヲ處分スルコトヲ得セシムル自由ヲ
認メタル所以ニシテ之ニ依リテ法律干渉ノ
適度ヲ保タシムルモノトス然レトモ右ニ述
ヘタル所ハ單ニ家督相續ノ性質ニ基ク當然ノ
效力ヲ示スニ止マルモノナレハ之カ為メニ
家督相續人カ法律ノ特別規定ニ因リテ受ク
ヘキ遺留分ヲ承継スルコトヲ妨ケラレサル
ハ勿論前戸主カ國籍ノ喪失ニ際シ特ニ家督

法典調査會

相續人ニ讓渡シタル相續財産ハ此者ニ於テ之ヲ承継スルコトヲ得ベキハ更ニ辨明ヲ要セサルヿヲ因リ本條ハ特ニ但書ノ規定ヲ設ケテ此趣旨ヲ明カナラシメタリ

第九百九十四條

〔理由〕 家督相續人ハ相續ノ開始ニ因リテ前戸主ノ権利義務ヲ承継スルヿヲ以テ一般ノ通則ト為スモノナレハ前戸主ノ債権者ハ爾後家督相續人ニ對シテ辨済ノ請求ヲ為スベキハ当然ノ事理ニ属スト雖モ國稀喪失ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ既ニ前條ニ於テ明示セルカ如ク前戸主ノ全財産ハ当然相續人ニ

法典調査會

移轉スルモノニ非スシテ寧ロ法律ノ特別規
定ニ因リ又ハ前戸主ノ隨意ノ指定ニ因リ限
定的ニ相續人ニ移轉スルモノナレハ斯ノ如
キ相續人ニ對シ前戸主ノ債權者ヲシテ其經
債權ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得セシムルニ
於テハ相續人ニ取リテ酷ニ失シ其利益ヲ害
スルコト少カラサルヘシ故ニ本條ハ國藉喪
失ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ前戸主ノ
債權者ヲシテ家督相續人カ財産ヲ讓受ケタ
ル限度ニ於テノミ此者ニ對シテ辨濟ノ請求
ヲ爲スコトヲ得セシメ其他ハ國籍喪失者ニ
對シテ辨濟ノ請求ヲ爲サシムルモノニシテ

法典調査會

之ニ依リテ法律保護ノ公平ヲ保タシムルモノトス

第九百九十五條

（理由）本條ノ規定ハ既成法典ニ其例ナシト雖モ立法ノ本旨ニ至リテハ既成法典モ亦固ヨリ本條ノ趣旨ヲ認ムルモノニシテ本條ノ理由ニ付テハ別ニ説明ヲ要セサルベシ唯如何ナル権利義務ハ果シテ前戶主ノ一身ニ專屬スルモノナルヤ否ヤハ性質ノ別ニ從ヒコトアルベシト雖モ権利義務ノ性質等ニ基キ適宜ニ立ツ別途スルノ外ナカルベシ

法典調査會

第六章　遺言

（理由）既成法典ハ遺言ヲ以テ遺贈ヲ為ス方法ナリト認メ贈與及ヒ遺贈ニ関スル取得編第十四章ノ下ニ於テ遺言ニ関スル規定ヲ掲ケタルニ因リ遺贈ニ関セサル遺言例ヘハ相續人ヲ指定シ或ハ養子縁組ヲ為シ或ハ後見人其他後見監督人ヲ指定スル遺言ノ如キハ

法典調査會

如何ナル規定ニ従フベキカニ付キ疑ヲ生セシムルノミナラス遺贈ニ関スル遺言ノミニ付テハ特別ノ方式ヲ必要トシ其他ノ遺言ニハ之ヲ要セストヲ為スカ如キハ固ヨリ其當ヲ得ス故ニ本條ハ本章ヲ題シテ遺言ト云ヒ廣ク各種ノ遺言ニ通スル規定ヲ掲クルモノニ

シテ遺言ヲ以テ単ニ財産取得ノ一方法ト解セシムルガ如キ既成法典ノ弊ヲ除去セリ而シテ本案ハ遺言ヲ以テ廣ク養子縁組後見人ノ指定其他寄附行為等ニ関スル一種ノ法律行為ト認ムルニ拘ハラス遺言ニ関スル規定ヲ以テ相續編中ニ編入シタル所以ハ遺言ハ

法典調査會

相續ニ関スルコト最モ多クシテ本編ヲ措キテ他ニ適當ノ位置ナケレハナリ

第一節　總則

(理由)　既成法典ハ遺言ニ関シテ別ニ總則ヲ設ケスト雖モ遺言ノ要式行為タルコト、遺言者ノ資格其他遺言ニ依リテ處分スルコトヲ

得ベキ財産部分ニ関スル規定ノ如キハ遺言ノ通則タルベキヲ以テ本案ハ特ニ本節ヲ設ケテ此等ノ通則ヲ纏括セリ

第千六十六條

(理由) 本條ハ遺言ノ要式行為タルコトヲ示スモノナレハ其趣旨ニ於テ固ヨリ既成法典ト異ナルコトナシ蓋シ遺言ハ本人ノ死後ニ其効力ヲ生スルモノニシテ後ニ至リテ之ヲ改ムルコトヲ得サルモノナレハ遺言ニ関シテハ特ニ錯誤詐欺等ヲ豫防スルコトヲ要スシ諸國ノ法律ハ概ネ皆遺言ヲ以テ要式行為ト為ス所以ニシテ本案モ亦此例ニ從フモ

ノナリト雖モ二三ノ立法例ノ如ク殊更ニ遺言ハ必ス本人自ラ之ヲ為スコトヲ要シ其代理ヲ許サヾル規定ヲ掲クルハ不必要ニシテ此趣旨ハ遺言ノ方式ニ関スル他ノ條文ニ依リテ自ラ明白ナルヘシ其他遺言ハ本人ノ死後ニ其効力ヲ生スルモノニシテ斯ノ如キコトハ法律ノ明文ヲ待チテ然ルコトヲ得ルモノナリトノ理論ニ基ツキ殊更ニ何人ト雖モ遺言ヲ為シ得ル旨ヲ明示スル立法例ナカラスト雖モ我國ニ於テハ從來ヨリ遺言ナルコトハ善ク人ノ知ル所ニシテ之ヲ為シ得ルコトニ付キ敢テ疑ヲ生セシムル虞ナキニ因リ

本案ハ別ニ遺言ノ權利ニ關スル規定ヲ掲ケ
サル ナリ

第千六十七條

（理由）本條ハ遺言年齡ニ關スル規定ニシテ既成法典財產取得編第三百五十七條第四號ニ修正ヲ加ヘタリ即チ既成法典ハ成年者ニ非サレハ遺贈ヲ為ス能力ヲ有セスト為スト雖モ遺言ハ法定代理人ト雖モ本人ニ代ハリテ之ヲ為スコトヲ得サル モノナレハ遺言年齡ヲ以テ普通ノ法律行為ニ關スル成年ト同一ナラシムルハ頗ル不便ナルノミナラス既ニ養子縁組又ハ婚姻ノ年齡ヲ以テ成年以下ニ

法典調査會

定メタル以上ハ未タ成年ニ達セサル者ト雖
モ既ニ養子縁組ヲ為シ或ハ婚姻ヲ為シタル
者ノ如キハ実際上遺言ノ必要ヲ感スルコト
決シテ少ナカラサルベシ殊ニ本案ノ如ク未
成年者ト雖モ有効ニ法律行為ヲ為ス能力ヲ
有シ只之ヲ取消スコトヲ得ルニ止ムル以上

ハ遺言年齢ヲ以テ普通ノ成年以下ニ指定ス
ルモ敢テ本案ノ立法ノ本旨ニ悖ルモノニ非
ス加之多数ノ立法例ハ特ニ遺言年齢ヲ指定
スルモノニシテ普澳、索巴等ノ法典ハ満十四
年トシ佛國民法ハ満十六年トシ加那太、紐育
ノ諸法典及獨乙民法ハ満十八年トシ獨逸普

通法ハ羅馬法ノ例ニ倣フテ男子ハ滿十四年女子ハ滿十二年ヲ以テ遺言年齡ト為セリ而シテ男女ノ區別ニ從ヒ遺言年齡ヲ區別スルコトハ其詮ナキニ非スト雖モ細密ニ失シテ其必要ナキニ因リ本案ハ女子ノ婚姻年齡養子緣組ノ年齡其他諸般ノ事情ヲ斟酌シテ滿十五年ヲ以テ遺言ニ關スル特別年齡ト為セリ

法典調査會

第千六十八條

(理由) 遺言ハ一個ノ法律行為タルニ因リ本條ノ明文ナキ限ハ行為能力ニ關スル總則編ノ規定ハ當然遺言ニ適用セラレ甚タ不當ノ

結果ヲ生スルニ至ルヘシ是レ即チ本條ニ於テ右ノ規定中遺言ニ適用スベカラサルモノヲ列挙スル所以ニシテ其理由左ノ如シ

一　第四條ハ未成年者カ法律行為ヲ為スニハ法定代理人ノ同意ヲ要スルモノニシテ遺言ニ付テモ此規定ニ從フコトヲ必要トスルトキハ本人ハ隨意ニ遺言ヲ為スコトヲ得サル弊ヲ免レサレハナリ

二　第九條ハ禁治産者ノ行為ヲ取消シ得ベキ旨ヲ認ムルモノニシテ取消シ得ベキ行為ハ無能力者ノ代理人又ハ承継人ニ於テモ之ヲ取消スコトヲ得ルハ第百二十條第

法典調査會

一項ノ明示スル所ナレハ禁治産者カ其本
心ニ復シタル時ニ於テ第千七十九條ノ規
定ニ從ヒ遺言ヲ為シタルニ拘ハラス其代
理人又ハ承継人カ之ヲ取消スコトヲ得ル
ニ於テハ禁治産者ト雖モ法定ノ要件ニ從
フ以上ハ遺言ヲ為シ得ルコトヲ認メタル

本案ノ主旨ノ本旨ニ牴觸スレハナリ蓋シ
既成法典財産取得編第三百五十七條第二
號ノ如ク禁治産者ハ断然遺贈ヲ為ス能力
ヲ有セスト為スニ於テハ固ヨリ其代理人
等カ遺言ノ取消ヲ為スコトヲ得ルヤ否ヤ
ニ付問題ヲ生セスト雖モ禁治産者ハ心神

喪失ノ情況ニ在ルモノニシテ即チ時々本心ニ復スルコトアルモノナレハ此中間時ニ於テハ有効ニ行為ヲ為スコトヲ得ヘキノミナラス心神ノ安固ナル間ニ自己ノ死後處分ヲ為スコトヲ得セシムルコトハ禁治産者ニ取リテ極メテ必要ナルニ因リ本案ハ禁治産者ト雖モ一定ノ要件ニ從フ以上ハ能ク遺言ヲ為シ得ベキコトヲ認ムルモノナレハ此立法ノ本旨ヲ全カラシメントスルニハ禁治産者ノ行為ノ取消シ得ベキコトヲ認メタル第九條ノ規定ハ之ヲ遺言ニ適用スルコトヲカラシメサルベカラ

サルハ當然ノ事理タルベシ

三　第十二條ハ準禁治産者ノ行為ニシテ保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノヲ規定スルモノナレハ若シ本條ノ規定ヲ遺言ニ適用シテ準禁治産者カ遺言ヲ為スニモ保佐人ノ同意ヲ要セシムルトキハ却テ本人ノ能力ヲ制限スルニ失シ實際ノ事情ニ適セサレハナリ蓋シ遺言ニ関スル準禁治産者ノ能力ニ付テハ諸國ノ立法例頗ル區々ナリト雖モ多数ノ法典ハ之ヲ認ムルモノニシテ本案ノ如ク禁治産者ト雖モ遺言ヲ為シ得ルコトヲ認ムルニ於テハ準禁治

法典調査會

産者ニ遺言ノ能力ヲ認ムルコトハ固ヨリ
當然ノ事タルベシ

四　第十四條ハ妻ノ行為ニシテ夫ノ許可ヲ
要スルモノヲ規定スルモノナレハ若シ本
條ノ規定ヲ遺言ニ適用スルトキハ妻カ自
由ニ遺言ヲ為スコト能ハサレハナリ殊ニ

法典調査會

遺言ハ死亡ニ因リテ其効力ヲ生スルモノ
ニシテ夫婦関係モ亦死亡ニ因リテ消滅ス
ルモノナレハ妻ト雖モ自由ニ遺言ヲ為ス
コトヲ得セシムルヲ以テ其當ヲ得タルモ
ノトス

第千六十九條

理由　本條ハ遺言ヲ為ス能力アル者ノ為シタル遺言ハ後ニ至リテ本人カ其能力ヲ失フモ敢テ其效力ヲ失フコトナキ旨ヲ明カニスルモノニシテ或ハ無用ノ條文タルカ如シト雖モ實際上ニ於テハ遺言ノ成立時期ト其効力發生ノ時期トヲ混同シテ遺言ハ本人ノ死亡ノ時ニ始メテ成立スルモノトシ遺言ヲ為ス時ニ其能力ヲ有スルモ死亡ノ時ニ能力ヲ有セサルトキハ遺言ハ無效ナリト解スル少カラス故ニ本案ハ多數ノ立法例ニ倣ヒ遺言者カ遺言ヲ為ス時ニ於テ其能力ヲ有スルコトヲ要シ後ニ至リテ之ヲ失フモ遺言ノ效力

法典調査會

ニ何等ノ関係ヲ及ホサヾル旨ヲ明ニセリ

第千七十條

（理由）本條ハ遺言ニ依リテ處分スルコトヲ得ベキ財産ノ部分ヲ明示スルモノニシテ既成法典ニハ元ト同様ノ條文ヲ掲ケスト雖モ其趣旨ニ於テハ既成法典其他多數ノ法典共

ニ認ムル所トス畢竟遺留分ナルモノハ公私ノ利益ヲ保護スル為メ法律上特ニ認メラレタルモノニシテ被相續人ハ隨意ニ死後處分ヲ加フルコトヲ得サルモノナレハ遺留分ニ関スル規定ニ違反セサル限ハ遺言者ハ包括名義ニ依ルト特定名義ニ依ルトニ関セス隨

意ニ其財産ノ全部又ハ一部ヲ處分スルコト
ヲ得ベキモノトス

第千七十一條

（理由）本條ハ遺贈ヲ受クル者即チ受遺者ノ資格ニ關スル規定ニシテ遺贈ヲ受クル點ニ於テ胎児ヲ以テ既生児ト見做スコトハ既成

法典其他多數ノ法典ノ共ニ認ムル所ナレハ本案ハ即チ第九百七十二條ノ規定ヲ受遺者ニ準用シ又第九百七十三條第二號乃至第六號ニ掲クル所ノ者ハ既ニ遺産相續人タルコトヲ得サルモノナレハ遺贈モ亦之ヲ受クルコト能ハサラシムルハ固ヨリ至當ノ事タル

ニ因リ第九百七十三條第二號乃至第六號ノ
規定モ亦之ヲ受遺者ニ準用セリ

第千七十二條

(理由) 本條ハ遺言ニ關シテ後見人ト被後見人トノ關係ヨリ生スル一種ノ弊害ヲ豫防セントスル趣旨ニ基ツクモノニシテ既成法典ニ其例ナシト雖モ佛國民法其他多數ノ法典ハ尚ホ廣キ範圍ニ於テ本條ト同樣ノ規定ヲ掲ケタリ蓋シ後見人ハ被後見人ニ對スル地位ヲ利用シテ私利ヲ營ムコトハ常ニ見ル所ニシテ法律ハ此弊害ヲ豫防スル為メ後見ニ關シテ種々ノ規定ヲ設クルモノナレハ此之

法典調査會

法ノ本旨ヲ全カラシムルニハ本條第一項ニ
掲クル如キ被後見人ノ遺言ヲシテ無効メラ
シムルヲ以テ至當トス何トナレハ後見人ハ
自己又ハ其配偶者若クハ直系卑屬ノ利益ノ
為メ被後見人ヲシテ適宜ノ遺言ヲ為サシム
ルコトハ甚タ容易ニシテ實際上常ニ行ハル

法典調査會

ベキコトタレハナリ而シテ或場合ニ於テハ
後見人カ其位地ヲ利用シタルニ非スシテ被
後見人カ本條ニ掲クル如キ遺言ヲ為スコト
アルベシト雖モ後見人カ其位地ヲ利用シタ
ルヤ否ヤハ極メテ証明シ難キモノナレハ本
案ハ寧ロ本條第一項ノ如キ断然タル規定ヲ

設ケ此ニ掲クル所ノ被後見人ノ遺言ヲ以テ
無效ト為セリ然レトモ後見人カ既ニ後見ノ
計算ヲ終ハリタル後ニ於テ前ノ被後見人カ
後見人又ハ其配偶者若クハ直系卑屬ノ利益
ノ為メニ為シタル遺言ヲ以テ尚ホ無效タラ
シムル理由ナキヲ以テ本條第一項ハ特ニ但

法典調査會

書ノ規定ヲ設ケテ此趣旨ヲ明カニセリ
後見人カ被後見人ノ直系血族、配偶者又ハ兄
弟姉妹タル場合ニ於テ此等ノ者ノ利益ノ為
メニ為シタル被後見人ノ遺言モ尚ホ且本條
第一項ノ規定ニ從ヒ無效タラシムルニ於テ
ハ干渉ニ失シ人情ニ悖ルノ弊ヲ免レザルベ

シシシ本條第二項ノ規定ヲ設クル所以ニシテ本項ノ場合ニ於テハ被後見人ノ遺言ハ其効力ヲ生スルモノトス然レトモ佛國民法其他多數ノ立法例ノ如ク醫師僧侶教師看護人等ノ利益ノ為メニ為シタル遺言モ總テ無効ト為ス如キハ頗ル細密ニ失シテ適當ノ範圍ヲ指定シ難キニ因リ本案ハ本條ノ規定ノ範圍ヲ後見人ト被後見人トノ關係ニ限定セリ

法典調査會

第二節　遺言ノ方式

(理由)　遺言ハ本人ノ死後其效力ヲ生スルモノナレハ遺言ヲ為スニ當リテハ後日ニ至リ紛爭ヲ生シ詐欺ノ行ハレンコトヲ豫防スル

為メ一定ノ方式ニ從フテ遺言ヲ為サシメ殊ニ之ヲ書面ニ記載シテ確然タル証拠タラシムルコトヲ要ス之レ本節ニ於テ遺言ノ方式ニ関スル規定ヲ掲クル所以ニシテ其立法ノ本旨ニ在テハ既成法典其他多数ノ法典ト異ナルコトナク又遺言ノ方式ヲ分チテ普通方式及ヒ特別方式ノ二種ト為ス點ニ於テモ既成法典ノ分類ニ從フモノトス

法典調査會

第一款　普通方式

(理由)　本款ハ既成法典財産取得編第十四章第四節第一款ニ相當スルモノニシテ既成法典ハ單ニ遺言ノ方式ト題スト雖モ本款ニ規

定スル方式ハ特別ノ事情ノ存セサル限ハ何
人ト雖モ遺言ヲ為スニ當リ通常之ニ從ハサ
ルベカラサルモノニシテ特別ノ場合ニ於ケ
ル遺言ニ関シテ指定セラレタル特別方式ニ
對スルモノナレハ本案ハ本款ヲ題シテ明カ
ニ遺言ノ普通方式ト称セリ

法典調査會

第千七十三條

理由　本條ハ遺言ノ普通方式ニ三種アルコ
トヲ示スモノニシテ既成法典財産取得編第
三百六十八條第一項ノ字句ヲ修正シタルニ
過キス而シテ本案カ特ニ本條但書ノ規定ヲ
附加シタル所以ハ本條ノ本則ニ於テ遺言ハ

必ス三種ノ証書中其一ニ依ラサルベカラサル旨ヲ明カニシタルニ因リ如何ナル場合ニ於テモ此以外ノ方式ニ依リテ遺言ヲ為スコトヲ得サルカヲ疑ハシムルニ足レハナリ

第千七十四條

(理由) 本條ハ自筆証書ニ依ル遺言ノ方式ヲ

法典調査會

規定スルモノニシテ其第一項ハ既成法典財産取得編第三百六十九條ノ字句ヲ修正シタルニ過キスシテ本條第二項ハ既成法典ニ其例ナシト雖モ別ニ自筆ノ遺言書ヲ保管スル官廳ナキ以上ハ遺言書ノ或部分ヲ塗抹シ又ハ書入其他ノ変更ヲ加フルモ何人カ之ヲ

為セシヤハ公明ナラスシテ後ニ紛爭ヲ生シ
詐欺ヲ行ハシムルニ足ルベシ故ニ此等ノ弊
害ヲ豫防スル方法トシテ本案ハ特ニ本條第
二項ノ規定ヲ設ケタルモノニシテ誓書其他
ノ書類ニ加ヘタル變更ノ認証ニ付キ從来普
通ニ行ハレタル方法ニ從フモノトス

法典調査會

第千七十五條

(理由) 本條ハ公正証書ニ依ル遺言ノ方式ヲ
想定スルモノニシテ既成法典財産最得編第
三百七十條ニ多少ノ修正ヲ加ヘタリ即チ既
成法典ハ立會証人ノ数ヲ二人ト為スト雖モ
後日ニ至リテ效力ヲ生スベキ遺言ニ在リテ

ハ効力発生ノ當時ニ証人カ往々存在セサル
コトアル ヲ以テ遺言ノ証人ハ寧ロ多数ナル
ヲ望ムノミナラス既成法典ノ如ク單ニ証人
二人ノ前ニ於テ云々ト規定スルトキハ二人
以上ノ証人アリシトキハ遺言ヲシテ却テ無
效タラシムルカノ疑ヲ生セシムルニ足ルヲ

以テ本案ハ本條第一項ニ於テ証人二人以上
ノ立會ヲ要スト改メタリ

次ニ既成法典ノ法文ニ依レハ公証人ハ遺言
ノ旨趣ヲ筆記セハ可ナルカ如シト雖モ本案
ハ務メテ遺言者ノ意思表示ヲ其儘ニ証書ニ
記載セシメン コトヲ欲シ本條第三項ニ於テ

公証人ハ遺言者ノ口述ヲ筆記スベキ旨ヲ明カニセリ而シテ既成法典ノ如ク公証人カ単ニ其筆記シタル所ヲ朗讀スルノミニテ足リト為ストキハ尚ホ遺言書ヲ確實ノモノタラシムルニ足ラサルヲ以テ多数ノ立法例ハ更ニ筆記ノ本文ヲ遺言者及ヒ証人ニ示スヿトヲ余スルモノナレハ本案モ亦此例ニ倣ヒ本條第四項ニ於テ遺言者及ヒ証人カ公証人ノ筆記ノ正確ナルヿトヲ承認シテ各自署名捺印スルヿトヲ要セリ加之既成法典ハ氏名ヲ自書スルヿト能ハサル者ニモ遺言ノ証人タルヿトヲ許スト雖モ本條ハ遺言書ノ確實

ナランコトヲ期シ証人ハサクトモ自ラ署名スルコトヲ得ルモノタルコトヲ要シ從テ本條第四項但書ニ於テハ單ニ遺言者カ署名スルコト能ハサル場合ニ付テノミ既成法典ト同樣ノ便宜法ヲ指定セリ

其他本條第五項モ遺言書ノ確実ナルコトヲ明白ナラシムル為メ多數ノ立法例ニ倣フテ制定シタルモノニシテ公証人カ單ニ署名捺印シタルノミニテハ足レリトセス必ス其調製シタル遺言書ハ法定ノ方式ニ從ヒタル旨ヲ附記スルコトヲ要セリ

第千七十六條

法典調査會

（理由）本條ハ秘密証書ニ依ル遺言ノ方式ヲ規定スルモノニシテ既成法典財産取得編第三百七十一條ニ相當ス而シテ既成法典ハ証人ノ数ヲ指定シテ二人ト為スニ拘ハラス本條第三號ハ証人二人以上ト改メタルハ証據保存ノ必要上証人ノ多数ナルコトヲ望ム趣旨ニ出ツルコトハ既ニ前條ニ於テ説明セシカ如シ既成法典ハ秘密証書ノ筆者ノ何人タルカヲ明示セシメサルハ重要ナル証據方法ヲ忽カセニスルモノナレハ本條第三號ハ遺言者カ必ス筆者ノ氏名、住所ヲ申述スルコトヲ要シ之ニ依リテ併セテ秘密証書ハ遺言者

法典調査會

之ヲ自書スルト他人カ之ヲ書スルトヲ問ハサルニヨリ明カニセリ

次ニ既成法典ハ氏名ヲ自書スルコト能ハサル者ト雖モ秘密証書ノ証人タルコトヲ得ベシト為スヲ以テ財産取得編第三百七十一條第四號但書ノ便宜法ヲ設クル必要アリト雖モ本案ハ既ニ前條ニ於テ説明セシ如ク右ノ証人ハサクトモ氏名ヲ自署スルコトヲ得ル者タルコトヲ要スル趣旨ニ從フモノナレハ証人カ其氏名ヲ自署スルコト能ハサル場合ニ對シテ特ニ便宜法ヲ設クル必要ナシ其他既成法典ハ公証人カ秘密証書ノ領收書ヲ渡

スベキ旨ノ規定ヲ掲クト雖モ之レ固ヨリ秘密証書ノ方式ニ関スル事項ニ非サレハ本案ハ之ヲ刪除シタリト雖モ秘密証書中ニ空抹書入其他ノ変更ヲ加ヘタル場合ニ對シ適當ノ証拠方法ヲ定ムルコトヲ要スルハ敢テ自筆証書ノ場合ト異ナルコトナキヲ以テ本案ハ特ニ本條第二項ノ明文ヲ設ケ秘密証書ニ依ル遺言ニ付テモ第千七十四條第二項ノ規定ヲ準用スベキモノト為セリ

法典調査會

第千七十七條

（理由）本條ハ秘密証書ニ依ル遺言カ自筆証書ニ依ル遺言トシテ其效力ヲ保存スベキ場

合ニ関スルモノニシテ既成法典財産取得編第三百七十二條ト同一ノ趣旨ニ從フモノナレハ別ニ説明ヲ要セス

第千七十八條

（理由）秘密証書ニ依リテ遺言ヲ為サントスル者ハ前條第一項第三號ノ規定ニ因リテ必要ナル申述ヲ為サザルベカラサルモノニシテ既成法典ハ財産取得編第三百七十一條第一項第三號ノ規定ニ從フモ尚オ自己ノ遺言書タル旨ヲ陳述スルコトヲ要スルニ拘ハラス實際上ニ於テ言語ヲ発スルコト能ハサル者カ秘密証書ニ依リテ遺言ヲ為サントスル

法典調査會

場合ナシトセス之し本條ハ既成法典ニ其例ナシト雖モ多数ノ立法例ニ倣フテ特ニ本條ノ規定ヲ設ケ言語ヲ発スル コト能ハサル者ト雖モ秘密証書ニ依リテ遺言ヲ為シ得ル便利ヲ保タシムルモノニシテ其方法ハ即チ本條第一項ニ示ス如ク遺言者ヲシテ其申述スベキ所ヲ遺言書ノ封紙ニ自書セシムルニ在リトヌ而シテ本條第二項ハ第一項ノ當然ノ結果タルヲ以テ別ニ説明ヲ要セス

法典調査會

第千七十九條

(理由) 既成法典財産取得編第三百五十七條第二項ハ禁治産者ヲ以テ遺贈ノ能力ヲ有セ

サル者ト為スト雖モ斯ノ如キ断然タル規定ノ不當ナル コトハ既ニ第千六十八條ニ於テ之ヲ説明セリ故ニ本案ハ禁治産者ト雖モ其本心ニ復シタル時ニ於テ能ク遺言ヲ為シ得ルコトヲ認ムルモノニシテ既ニ行為能力ニ関スル総則編ノ規定ニ於テ心神喪失ノ状況ニ在ル者ヲシテ自ラ禁治産ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得セシメタル立法ノ本旨ト敢テ異ナル所ナキノミナラス遺言ノ如キ死後處分ハ禁治産者本人ヲシテ其本心ニ復シタル時ニ之ヲ為サシムルノ必要極メテ大ナリトス只此場合ニ於テ禁治産者カ果シテ本心ニ復

法典調査會

シタル時ニ於テ遺言ヲ為シタルヤ否ヤニ付キ爭ヲ生セシムルニ足ルヲ以テ法律上此弊害ヲ豫防スルコトヲ要スヨシ即チ本案ハ禁治産者カ遺言ヲ為ス場合ニ對シ特ニ本條ノ方式ヲ規定スル所以ニシテ其第一項ハ即チ二人以上ノ醫師ヲ立會ハシメテ禁治産者カ

本心ニ復シタル時ニ遺言ヲ為シタルコトヲ証明セシメ其第二項ハ右ノ醫師カ其証明ヲ為スニ當リ遵守スベキ方式ヲ指定スルモノトス要スルニ禁治産者ノ遺言ノ能力ハ既ニ本章ノ總則ニ於テ之ヲ認メタルモノニシテ本條ハ右通則ノ適用ニ關スル特別ノ方式ヲ

規定スル モノナレハ 本條ノ規定ニ因リテ醫師二人以上ノ立會タルニ之カ為メニ遺言ニ必要ナル他ノ証人ヲ不必要タラシムルモノニ非サル コト實ヲ辯明ヲ要セサル所トス

第千八十條

（理由） 本條ハ遺言ノ証人又ハ立會人タルコトヲ得サル者ヲ列擧スルモノニシテ既成法典財産取得編第三百七十三條ニ比シ大ニ其範圍ヲ廣メタリ蓋シ遺言ノ効力ハ証人又ハ立會人ノ証言ニ依リテ定マルモノタルニ拘ハラス何人ト雖モ証人又ハ立會人タルコトヲ得ルニ於テハ容易ニ詐欺カ行ハレ証書ノ

直正ヲ保チ難キヲ以テ無能力者ヲ始メトシテ遺言ニ付キ利害関係ヲ有スル者其他証人又ハ立會人タル信用ヲ與フルコトヲ得サル者ノ如キハ遺言ノ証人又ハ立會人タルコトヲ得サラシムルヲ以テ至當トス畢竟本條ニ列挙スル所ノ者モ固ヨリ適宜ノ斟酌ニ依リ之ヲ定メタルニ外ナラスト雖モ改成法典カ遺言ノ証人タルコトヲ得サル者トシテ除外セル範圍ハ範圍ハ頗ル狹キニ失セルヲ以テ本案ハ多数ノ立法例ニ倣フテ適當ニ之ヲ擴張セリ

第千八十一條

法典調査會

（理由）本條ハ所謂共同遺言ヲ禁スルモノニシテ既成法典財産取得編第三百六十八條第二項ノ字句ヲ修正シタルニ過キス蓋シ共同遺言ハ遺言ノ取消ノ自由ヲ妨クルノミナラス遺言者カ共同遺言ヲ為シタル意思ニ付テ種々ノ疑ヲ生セシムルニ因リ多数ノ立法例ハ概ネ共同遺言ヲ禁シ只夫婦間ニ於テノミ之ヲ許ス所ノ一二ノ立法例アリト雖モ我國ニ於テハ其必要ヲ感セサルニ因リ本案ハ全ク既成法典ト同一ノ趣旨ニ基ヅキ本條ノ規定ヲ存シタリ

法典調査會

第二款　特別方式

（理由）本款ハ既成法典財産取得編第十四章第四節第二款ニ相當スルモノニシテ其大躰ニ於テ既成法典ト異ナルコトナシト雖モ既成法典カ遺言ノ特別方式ニ依ラシムル場合ハ聊カ制限ニ失シ實際ノ事情ニ適セサル所アルヲ以テ本案ハ此點ニ於テ補充的修正ヲ加ヘタリ故ニ本款ノ規定ハ既成法典ニ比シ其條數ヲ增スニ至リタリト雖モ其詳細ハ各本條ニ就テ之ヲ說明スベシ

第千八十二條

（理由）本條ハ既成法典ニ其例ナシト雖モ死亡ノ危急ニ迫リタル者ヲシテ普通方式ニ依

法典調査會

リ遺言ヲ為サシムルコトヲ得サルハ事實上疑ナキ所ニシテ殊ニ我國ノ如ク豫メ遺言ヲ為シ置クノ風習未タ行ハレス概ネ死亡ニ瀕シテ遺言ヲ為ス者多キ状態ニ於テハ此場合ニ對シ簡易ナル遺言ノ特別方式ヲ指定スルコトヲ要ス是レ即チ本條ハ疾病其他ノ事由

法典調査會

ニ因リ死亡ノ危急ニ迫リタル者ノ為メニ左ニ説明スル如キ遺言ノ特別方式ヲ認メタル所以ニシテ此方式ハ諸種ノ特別方式中最モ普通ニ行ハルルモノナレハ本款ノ首條トシテ之ニ関スル規定ヲ掲ケタリ

從來普通ニ行ハレタル所ニ依レハ臨終ニ際

シ本人カ其最モ親昵セル者ニ遺言ノ旨趣ヲ口授スルニ止マルコト多ク又將ニ死亡セントスル者ノ遺言ノ如キハ務メテ簡易ノ方式ニ從ハシムルコトヲ要スルハ實際ノ事情ニ照ラシテ疑ナキノミナラス本人カ未タ遺言ヲ為サントセサルニ拘ハラス他ヨリ其臨終ヲ推測シテ遺言ニ必要ナル方式ヲ備ヘ本人ニ對シテ其遺言ヲ求ムルカ如キハ人情ノ許ササル所ナキニシモ非スト雖モ從來普通ニ行ハレタル遺言ノ如ク單ニ或一人ニ其旨趣ヲ口授スルモ之ニ依リテ完全ニ遺言ノ効力ヲ生スルモノト為スニ於テハ此者カ容易ニ

法典調査會

遺言ノ旨趣ヲ稽ムル コトヲ得ベク又之ヲ書
面ニ記載セサル ニ於テハ遂ニハ詐欺ヲ誘発
シ紛爭ヲ釀生セシムルノ弊ニ堪ヘサルベシ
故ニ本法ハ從來ノ風習ニ照ラシテ多少今日
ノ實際ニ適セサル嫌ナキ能ハサルニ拘ハラ
ス疾病其他ノ事由ニ因リ死亡ノ危急ニ迫リ

テ遺言ヲ為サントスル場合ト雖モ証人三人
以上ノ立會ノ上其一人ニ遺言ノ旨趣ヲ口授
シ此者ハ之ヲ筆記シテ遺言者及ヒ他ノ証人
ニ讀聞カセ各証人ハ筆記ノ正確ナルコトヲ
承認シタル後署名捺印スベキモノトシ之ニ
依リテ遺言ノ旨趣ヲ他ヨリ變更增減スルカ

如キ弊ヲ豫防スルト同時ニ遺言ノ普通方式ニ比シテ一層簡易ナル特別方式ニ依リ遺言ヲ為スコトヲ得セシムルモノトス

以上説明スル所ノ簡易ナル方式ニ依リ遺言ヲ為シタル場合ト雖モ斯ノ如キ遺言ハ尚本後ニ至リ他ヨリ変更増減スルコト頗ル容易ニシテ殊ニ立會ノ証人カ共謀シテ遺言ノ旨趣ヲ矯ムルカ如キ弊ナキヲ保セス故ニ本法ハ此等ノ弊害ヲ豫防シ遺言ノ確實ナランコトヲ期スル為メ其有効條件トシテ更ニ本條第二項ノ規定ヲ設ケ第一項ノ規定ニ依リテ為シタル遺言ト雖モ遺言ノ日ヨリ二十日内

法典調査會

ニ証人ノ一人右利害関係人ニシテ其確認ヲ裁判所ニ請求セサルベカラストシ裁判所ハ本條第三項ニ明示スルカ如ク遺言カ遺言者ノ真實ノ意思ニ出テタル心証ヲ得テ始メテ其確認ヲ與ヘ之ニ依リテ遺言ノ效力ヲ発生セシムル モノト為セリ蓋シ右ニ述フルカ如キ

法典調査會

手續及ヒ確認請求ノ期限ノ如キハ或ハ今日ノ實際ニ適セサル嫌ナキ能ハスト雖モ遺言ニ因リテ後日濫リニ紛争カ生シ詐欺カ行ハルル弊害ニ比スレハ敢テ不當ノ立法主義ニ非サル コトヲ信スルモノナリ

第千八十三條

（理由）本條ハ既成法典財産取得編第三百七十六條ト殆ント同一ニシテ其必要ナルコトハ別ニ説明ヲ要セス唯既成法典ノ如ク交通遮断セラレタル地方ニ在ル者ト曰フトキハ交通遮断ノ家屋病院寺ニ在ル者ヲ包含セサルカノ疑ヲ生セシムルニ足ルヲ以テ本法ハ廣ク交通遮断ノ場所ニ在ル者ト改メタル外証人ノ数ヲ一人以上トシ既成法典ノ如ク之ヲ一人ニ限定スルカ如キ不必要ノ制限ヲ除去シタルニ過キス

第千八十四條

（理由）本條ハ既成法典財産取得編第三百七

法典調査會

十四條及ヒ第三百七十五條ヲ合シテ之ニ多少ノ修正ヲ加ヘタリト雖モ其本旨ニ至リテハ全ク既成法典其他多數ノ法典ニ採用セル立法主義ニ從フモノトス蓋シ軍人及ヒ軍屬ノ意義ハ陸海軍ニ關スル諸法令ニ照ラシテ自ラ明白ナルベク斯ノ如キ者ノ為メニ特別ノ場合ニ於ケル遺言ニ付キ特ニ簡易ナル方式ヲ指定スルコトヲ要スルハ固ヨリ論ヲ俟タサル所ナリト雖モ此特別方式ニ從フコトヲ得ベキ軍人又ハ軍屬ヲ指定スルニ當リ既成法典ノ如ク遠征中ニ在ル者又ハ内地ト雖モ交戰中ニ在ル者ト言フトキハ遠征ナル用

語ノ意義極メテ不確定ニシテ陸海軍ニ関スル諸法令中ニモ其例ヲ見ス又交戰ナル用語ハ其意義狹キニ失シテ之法ノ本旨ニ適セサルニ因リ本法ハ此等ノ弊ヲ避クル為メ廣ク從軍中ノ軍人軍屬ハ本條ノ特別方式ニ依リ遺言ヲ為スコトヲ得ト改メタルモノニシテ

法典調査會

從軍ナル用語ハ陸海軍ノ法令上ニ於テ其意義自ラ明白ナルベク既成法典ニ所謂合圍中ニ在ル軍人軍屬ノ如キモ當然其中ニ包含セラルルモノナレハ陸海軍ノ主務者ノ意見ヲ參酌シテ右ニ述ブルカ如キ修正ヲ加ヘタリ

次ニ本條第一項ノ場合ニ於ケル立會人ニ付

テハ既成法典財産取得編第三百七十四條ハ
將校一人証人二人ト為スト雖モ軍隊派遣ノ
實際上ニ於テハ別ニ將校ナクシテ其相當官
ノミ存スル コトアリ或ハ將校及ヒ相當官ナ
クシテ軍ニ準士官又ハ下士ノミ存スルコト
アリテ既成法典ノ制限的標準ハ實際ノ事情

ニ適セサル場合少カラサルニ因リ是レ亦主
務省ノ意見ヲ參酌シテ立會人ノ範圍ヲ擴張
シ將校又ハ相當官ノ一人若クハ此等ノ者ナ
キトキハ準士官又ハ下士一人ノ立會ヲ要ス
トシ又証人ノ數ニ付テハ既成法典ノ如ク二
人ニ限定スル必要ナキヲ以テ之ヲ二人以上

ト改メタリ

本條第二項ハ既成法典財産取得編第三百七十五條ニ相當スルモノニシテ同條ニ所謂遠征中、交戰中又ハ合圍中ニ在ル軍人又ハ軍屬ヲ改メテ單ニ從軍中ノ軍人又ハ軍屬ト為シタル理由ハ既ニ説明セリ而シテ之會人ニ付テハ既成法典ハ之ヲ醫官及ヒ軍務官ト為スト雖モ臨時雇入ノ醫士ノ如キハ之ヲ醫官ト稱スルコトヲ得ス又別ニ事務官ナル者存セサル場合ナシトセサルニ因リ本法ハ廣ク醫師ナル用語ニ依リ此者ヲ以テ第一項ニ掲クル所ノ將校又ハ相當官ニ代フルコトヲ得セ

シメ且証人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ
作ラシムル モノト為セリ

第千八十五條

（理由）本條ハ従軍中ノ軍人及ヒ軍屬ノ遺言
ニ付口頭ニ依ル特別方式ヲ認ムル モノニシ
テ既成法典ニ其例ナシト雖モ既ニ本欵ノ首
條ニ於テ通常人ニ付キ本條ト同樣ノ特別方
式ヲ認メ實際ノ必要ニ適セシメタル モノナ
シハ従軍中ノ軍人及ヒ軍屬ニ付テモ疾病傷
痍其他ノ事由ニ因リ死亡ノ危急ニ迫リタル
場合ニ於テ口頭ノ遺言ヲ許ス必要アルコト
ハ固ヨリ論ヲ俟タス故ニ本法ハ主務省ノ意

法典調査會

見ヲ参酌シテ本條ノ規定ヲ設ケタル モノニ
シテ立會 証人ヲ二人以上ト為シタル所以ハ從
軍中ナルヲ以テカメテ多人数ヲ要セサラシ
メント欲スト雖モ一人ノ証人ニテハ頗ル信
憑ヲ措キ難キニ因ルノミ其他証人ノ為スベ
キ手續ヲ簡易ナラシメタルハ實際ノ事情ヲ

斟酌シタルニ外ナラスト雖モ遺言書ノ變更
増減ヲ豫防シ其確實ヲ保タントスルニハ公
ノ權力ニ依リ之ヲ確認セシムルノ必要アル
ニ因リ本條第二項及ヒ第三項ハ第千八十二
條ノ例ニ倣ヒ之ニ適當ノ規定ヲ掲クルモノ
ニシテ裁判所ニ代フルニ理事又ハ主理ヲ以

テシタル ハ陸軍ニ於ケル 理事及ヒ海軍ニ於ケル 主理ハ即チ裁判官ノ職務ヲ行フモノナレハ ナリ 其他確認請求ノ時期ニ付テハ 從軍中ノ者ニ對シ第千八十二條第二項ノ如ク相當ノ期間ヲ指定シテ遺言書ノ提出ヲ强要スルコトヲ得サルハ實際ノ事情ニ照ラシテ疑ナキ所タルニ因リ本條第二項ハ單ニ遲滯ナク遺言書ヲ提出スルコトヲ要スル旨ヲ示スニ止メタリ

法典調査會

第千八十六條

(理由) 本條ハ既成法典財産取得編第三百七十七條ノ趣旨ニ從フモノニシテ唯其適用ノ

範圍ヲ擴張シタルニ過キス即チ既成法典ハ
單ニ航海中ニ在ル者ニ對シ本條ノ特別方式
ヲ定ムルニ止マルト雖モ航海中ニ在ラスシ
テ現ニ軍艦其他ノ船舶中ニ在ル者ハ其事情
敢テ航海中ニ在ル者ト異ナル所ナキヲ以テ
本院ハ廣ク艦船中ニ在ル者ヲシテ本條ノ特

法典調査會

別方式ニ從ヒ遺言書ヲ作ルコトヲ得セシメ
タリ其他立會人ノ範圍ニ付キ多少修正ヲ加
ヘタリト雖モ其理由ハ既ニ第千八十四條ニ
於テ說明セシ所ト敢テ異ナルコトナキヲ以
テ茲ニ之ヲ略ス

第千八十七條

（理由）本條ハ既成法典ニ其例ナレト雖モ軍艦其他ノ船舶カ危難ニ遭遇シタル場合ニ於テハ遺難者カ遺言ヲ為スニ付キ第千八十六條ノ特別方式ニモ従フコトヲ得サル事情ニ存スルコトハ別ニ說明ヲ要セサル所ニシテ既ニ第千八十五條ハ従軍中死亡ニ瀕シタル軍人及ヒ軍屬ノ為メニ口頭ニ依リ遺言ノ方式ヲ認メタル以上ハ艦船ノ危難ニ遭遇シタル者ノ為メニモ亦之ト同樣ノ特別方式ヲ認ムルノ必要ナルコト更ニ辯明ヲ要セサル所トス是レ即チ本條ハ特ニ艦船遭難ノ場合ニ於テハ第千八十五條ノ規定ヲ準用シ口頭ノ

法典調査會

遺言ヲ為スコトヲ得セシメタル所以ニシテ

証人其他遺言書確認ノ請求等ニ関シテハ既

ニ第千八十五條ニ於テ説明シタルニ因リ茲

ニ之ヲ反復セス

第千八十八條

（理由）本條ハ既成法典財産取得編第三百七

十九條ノ字句ヲ修正シテ其意ヲ判明ナラシ

メタルニ止マル モノナレハ別ニ説明ヲ要セ

ス

第千八十九條

（理由）第千七十六條第二項ハ遺言ノ普通方

式中ニ於テ自筆証書ニ依リテ遺言ヲ為シタ

法典調査會

ル者カ証書ニ塗抹書入其他ノ変更ヲ加ヘタ
ルトキハ其場所ヲ指示シ之ヲ変更シタル旨
ヲ附記シテ特ニ之ニ署名シ且其変更ノ場所
ニ捺印スルコトヲ要スル旨ヲ明示セルモノ
ニシテ第千七十九條ハ禁治産者カ本心ニ復
シタル時ニ於テ遺言ヲ為スニ必要ナル條件

法典調査會

ヲ規定シ第千八十條ハ遺言ノ証人又ハ立會
人ト為ルコトヲ得サル者ヲ指定シ其他第千
八十一條ハ二人以上同一ノ証書ヲ以テ遺言
ヲ為スコトヲ禁スル規定ニシテ此等ノ規定
ハ総テ第千八十二條乃至第千八十八條ニ掲
クル所ノ特別方式ニ依ル遺言ニ付テモ必要

ナルコト別ニ説明ヲ要セサル所ナレハ本條ハ特ニ前述ノ規定ヲ此遺言ニ準用スベキ旨ヲ示シタルニ過キス

第千九十條

（理由）第千八十二條乃至第千八十八條ハ特別ノ事情ノ下ニ存スル者ノ為メニ簡易ナ

法典調査會

特別方式ニ依リ遺言ヲ為スコトヲ得セシメタル モノニシテ遺言ノ確實ヲ保タントスル立法ノ本旨ニ對シ多少牴觸スル所アルハ固ヨリ疑ナキ所タルヲ以テ特別方式ニ依ルコトヲ得セシメタル原因カ消滅シテ遺言者カ普通方式ニ依リ遺言ヲ為スコトヲ得ルニ至

リタル トキハ 先ノ遺言ヲシテ 其効力ヲ失ハシメ 更ニ普通方式ニ依リテ遺言ヲ為シ 其確實ヲ保タシムルヲ以テ至當トス 故ニ本法ハ多數ノ立法例ニ倣ヒ 特ニ本條ニ於テ特別方式ニ依リタル遺言ノ有效期間ヲ定メ 此遺言ハ本人カ普通方式ニ依リテ遺言ヲ為スコトヲ得ルニ至リタル時ヨリ 六ケ月間生存スルトキハ 其效力ヲ失フベキ旨ヲ明示シタルモノニシテ 既成法典ニ此例ナキハ 其缺點ト謂フヘシ

第千九十一條

(理由) 本條ハ外國ニ在ル日本人ノ遺言ノ方

法典調査會

式ニ関スル規定ニシテ其第一項ハ既成法典
財産取得編第三百八十條ノ趣旨ニ從ヒ唯其
字句ヲ修正シタルニ過キスシテ既成法典
ハ公正証書又ハ秘密証書ニ依ル遺言ヲ為ス
ニハ公証人ノ存スルコトヲ要スルニ因リ外
國ニ在ル日本人ニ對シ此等ノ方式ニ依リテノ
遺言ヲ為スコトヲ許サスト雖モ公証人ノ職
務ハ日本ノ領事ヲシテ之ヲ行ハシムルコト
ヲ得ルヲ以テ外國ニ在ル日本人ニ付テモ力
メテ遺言ノ方式ヲ自由ニシ實際ノ便宜ニ適
セシムルヲ以テ至當トス故ニ本法ハ既成法
典ニ其例ナシト雖モ多数ノ立法例ニ倣ヒ特

二本條第二項ノ規定ヲ設ケ日本ノ領事ノ駐
在スル地ニ在ル日本人ヲシテ公正証書又ハ
秘密証書ニ依リ遺言ヲ為スコトヲ得セシメ
從テ公証人ノ職務ハ領事ヲシテ之ヲ行ハシ
ムベキ旨ヲ明示スルモノニシテ領事ハ人民
保護ノ任ニ當ル者ナレハ右ノ職務ヲ行ハシ
ムルニ付キ其當ヲ得タルモノト謂フベシ其
他既成法典財産取得編第三百八十一條ハ其
實質ニ於テ不必要ノ手續タルニ因リ之ヲ刪
除セリ

第千九十二條

(理由) 本條ハ日本ニ在ル外國人ノ遺言ノ方

法典調査會

式ニ関スル規定ニシテ既成法典財産取得編
第三百八十二條ノ字句ヲ修正シタルニ過キ
サルヲ以テ別ニ説明ヲ要セス

法典調査會